

令和6年度 茨木市生涯学習推進計画 事業進捗報告書



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

目 次

第1	生涯学習推進計画のめざす姿	
1	生涯学習推進計画のめざす姿	1
2	生涯学習推進計画の計画の体系	2
第2	生涯学習推進計画事業進捗	
1	総括表	3
2	生涯学習推進計画事業進捗の見方	4
3	茨木市機構図	5
4	令和6年度生涯学習推進計画事業評価	
(1)	基本目標1 まなびづくり	7
(2)	基本目標2 ひとづくり	36
(3)	基本目標3 まちづくり	40

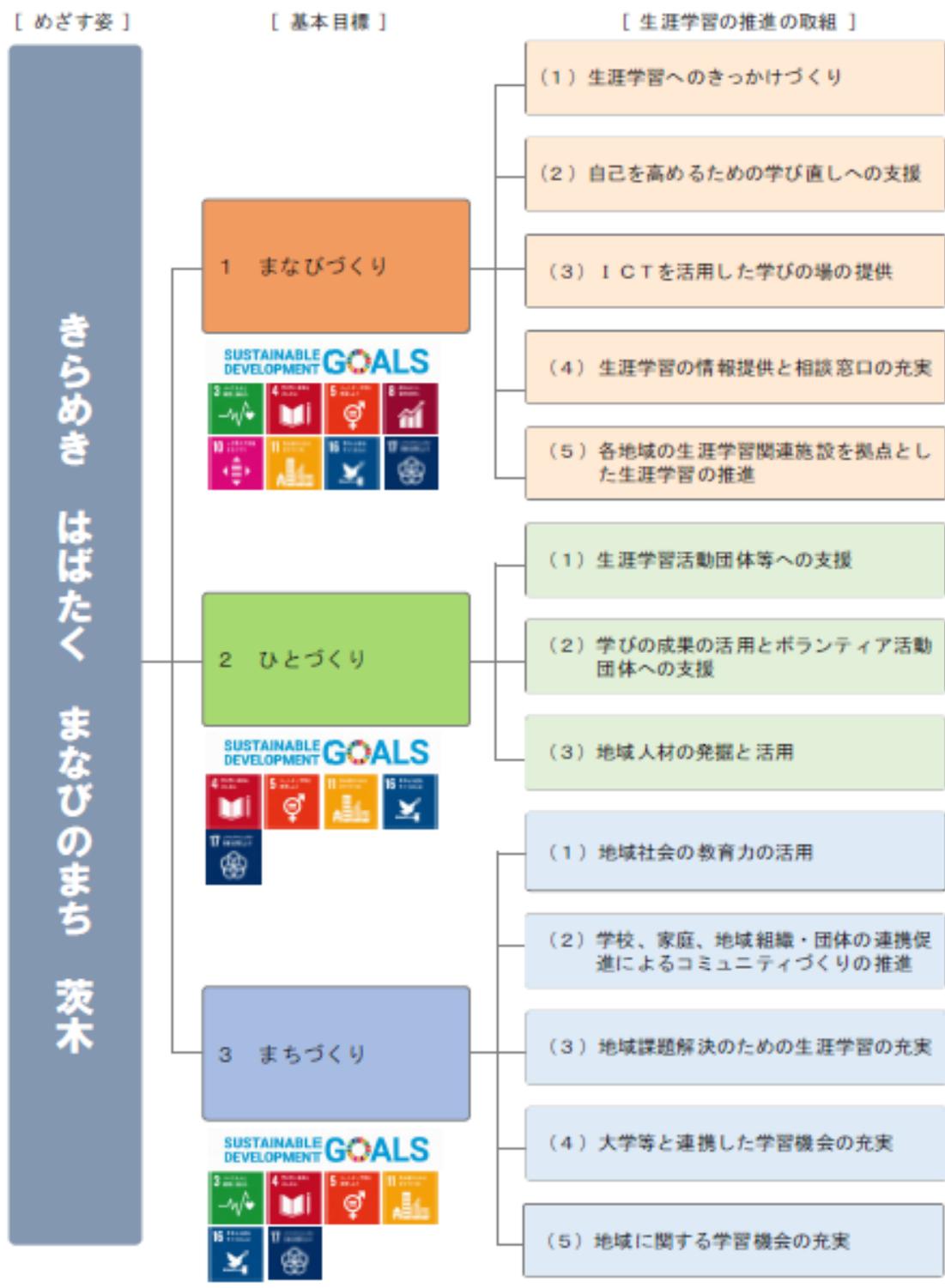
第1 生涯学習推進計画のめざす姿

1 生涯学習推進計画のめざす姿

人生100年時代の到来に向けて、より長期にわたり豊かな人生を送るために、すべての市民が、いつでも、どこでも学ぶことができ、その学びを通して自己実現や生活の質の向上を図り、学んだ成果を地域社会に還元することができる、“学んで楽しい”と思える生涯学習活動のできるまちの実現をめざします。

きらめき はばたく まなびのまち 茨木

2 生涯学習推進計画の計画の体系



第2 茨木市生涯学習推進計画事業進捗

1 総括表

令和6年度茨木市生涯学習推進計画における、各目標における事業評価は以下のとおりです。なお、評価のA～Dの意味は次のとおりです。

A	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗が順調に進行している。
B	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗がおおむね順調に進行している。
C	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗にやや遅れが生じている。
D	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗に大幅な遅れが生じている。

生涯学習推進の取組評価（再掲事業含む）

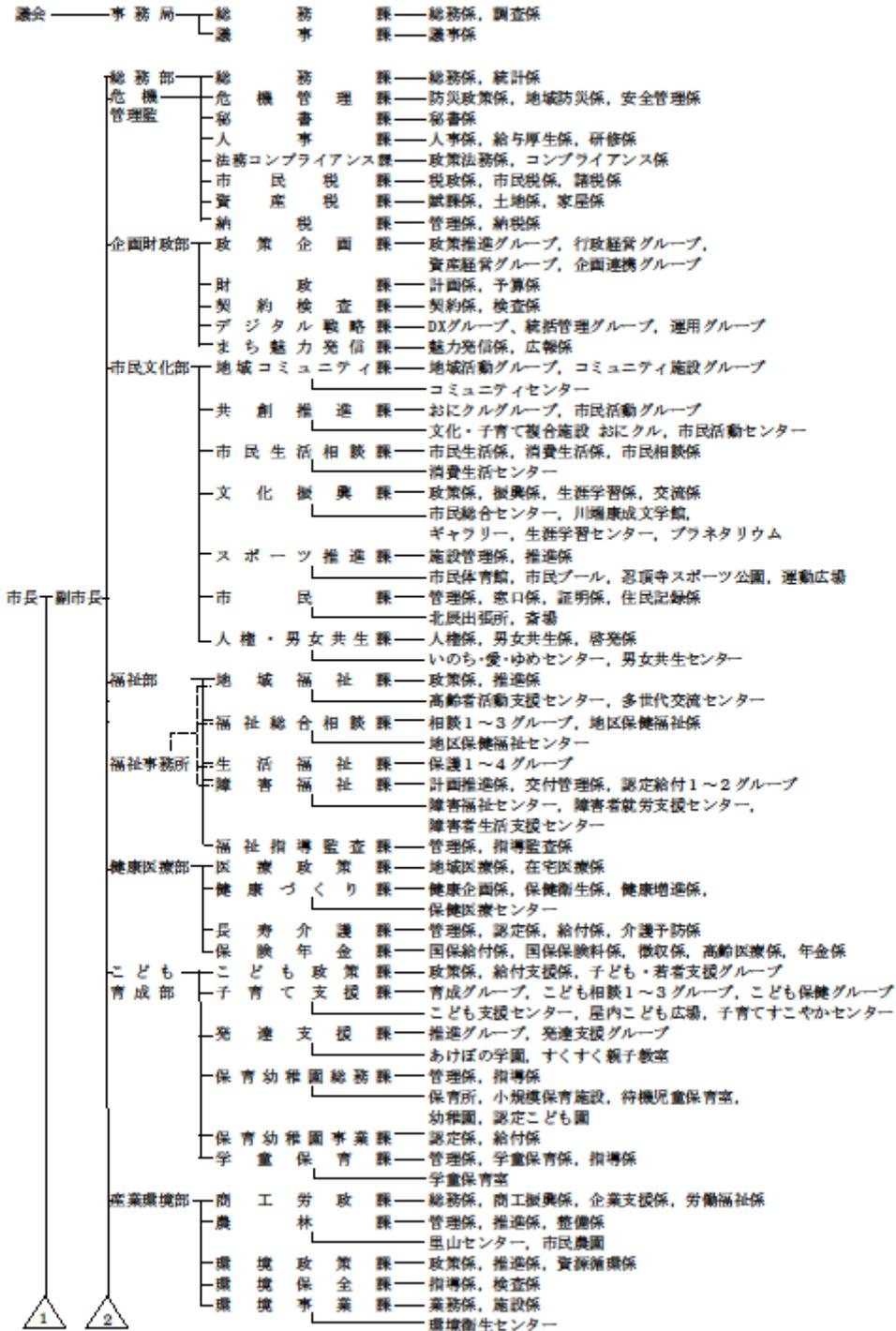
基本目標	生涯学習推進の取組	事業数	生涯学習推進の取組			
			A	B	C	D
1 まなびづくり	(1)生涯学習へのきっかけづくり	56	29	26	1	0
1 まなびづくり	(2)自己を高めるための学び直しへの支援	2	1	1	0	0
1 まなびづくり	(3)ICTを活用した学びの場の提供	3	2	1	0	0
1 まなびづくり	(4)生涯学習の情報提供と相談窓口の充実	4	4	0	0	0
1 まなびづくり	(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進	7	0	7	0	0
2 ひとづくり	(1)生涯学習活動団体等への支援	2	0	1	1	0
2 ひとづくり	(2)学びの成果の活用とボランティア活動団体への支援	1	0	1	0	0
2 ひとづくり	(3)地域人材の発掘と活用	4	1	1	2	0
3 まちづくり	(1)地域社会の教育力の活用	2	0	2	0	0
3 まちづくり	(2)学校、家庭、地域組織・団体の連携促進によるコミュニティづくりの	7	3	4	0	0
3 まちづくり	(3)地域課題解決のための生涯学習の充実	12	7	5	0	0
3 まちづくり	(4)大学等と連携した学習機会の充実	2	0	2	0	0
3 まちづくり	(5)地域に関する学習機会の充実	19	6	13	0	0
合計		121	53	64	4	0

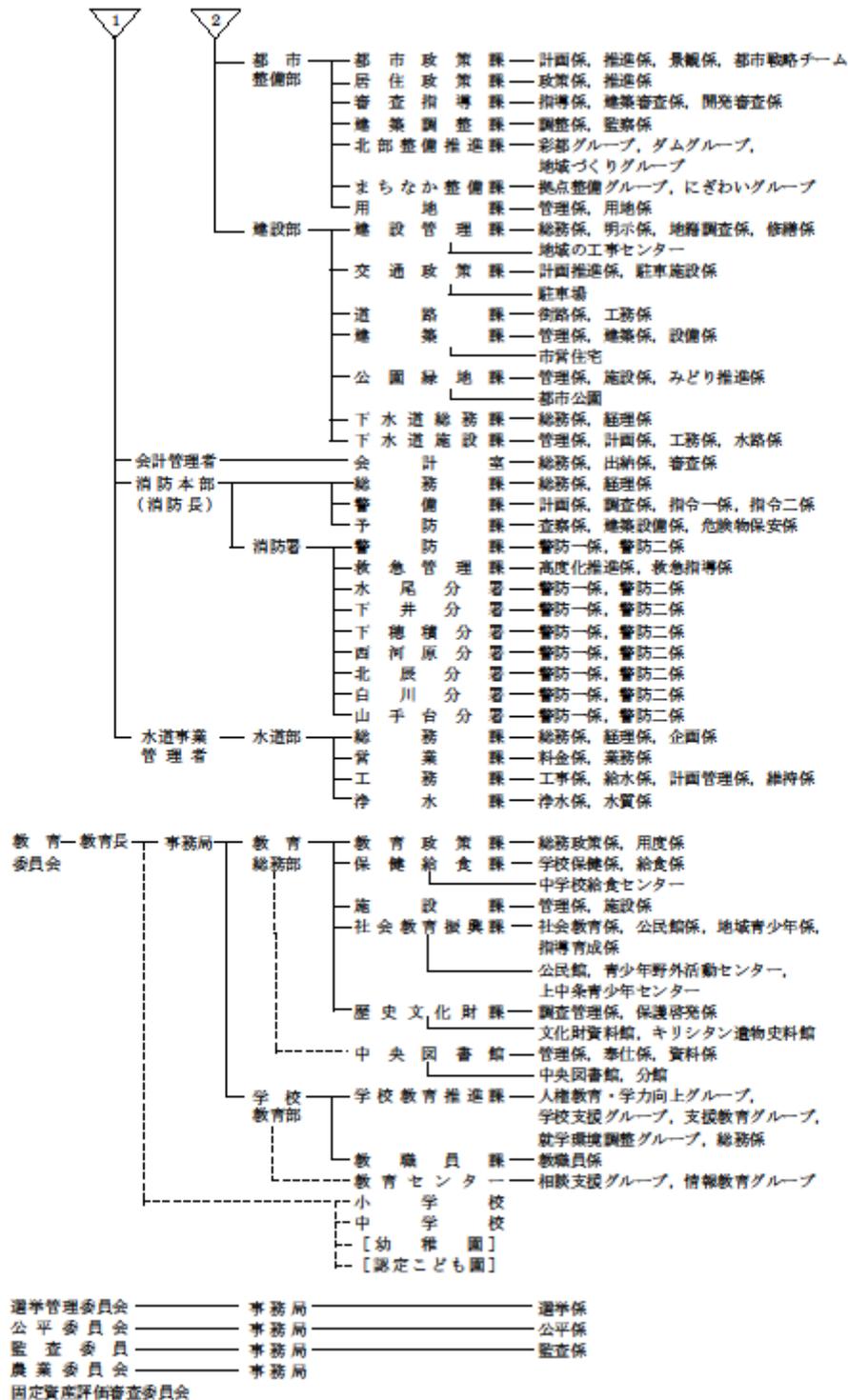
2 生涯学習推進計画事業評価の見方について

◇ 基本目標								
1	基本目標	1 まなびづくり						
		茨木市生涯学習推進計画の基本目標の内容を記載しています。						生涯学
◇ 生涯学習推進の取組内容								
2	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習へのきっかけづくり						
3	取組内容	茨木市生涯学習推進計画の生涯学習推進の取組内容について記載しています。						対象者 民間事
◇ 事業内容								
1	事業名	財政状況等の公表事務事業						
	担当課	(部名)	企画財政部			(課名)	財政課	
	再掲							
	事業内容	より多くの市民に、市の財政運営や状況等について関心を持ってもらうために、よりわかり易くタイムリーな財政情報を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	ホームページの更新	回	27	21	14	17	15
	②	広報誌への掲載	回	5	5	2	3	2
	③	小・中学校の社会科授業との連携	回	2	2	2	2	2
	④	高校の社会科授業との連携	回	0	1	1	2	2
	R6年度の取組内容及び成果	評価	令和6年度時点での茨木市生涯学習推進計画における事業進捗状況について、取組内容及び成果、課題や方向性について記載し、事業の評価を実施しています。					会科 持つ
課題	小						る。	
今後の方向性	ホームページについては、よりわかりやすいページ作成に努める。社会科授業との連携については、引き続きアンケートの結果を踏まえながら事業を継続する。							
2	事業名	生涯学習センター出前講座実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部			(課名)	文化振興課	
	再掲	3 まちづくり、(3)地域課題解決のための生涯学習の充実						
	事業内容	市内で活動されている団体等が、自発的に学びたいメニューを選択できるように、市の様々な事業や施策について講座を受けられるように出前講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	出前講座メニュー数	件	117	119	115	124	130
	②	出前講座実施件数	件	132	272	795	818	850
	③	出前講座受講者数(延人数)	人	2953	9176	61662	33348	50000
	R6年度の取組内容及び成果	評価	市民等が多様な分野における市の事業や施策について学ぶ機会が提供できるように、令和6年度は令和5年度よりも出前講座メニューを増加した。また、受講者数の多い消防関連講座にて受講生が減少したことにより受講者総数は減少しているが、実施回数は増加しており、多くの団体が出前講座を活用している。					
	課題	引き続き、市の多様な事業や施策について学ぶ機会が提供できるよう、講座情報の発信を行う必要がある。						
今後の方向性	各課の講座情報を集約し、講座情報の発信を行う。							

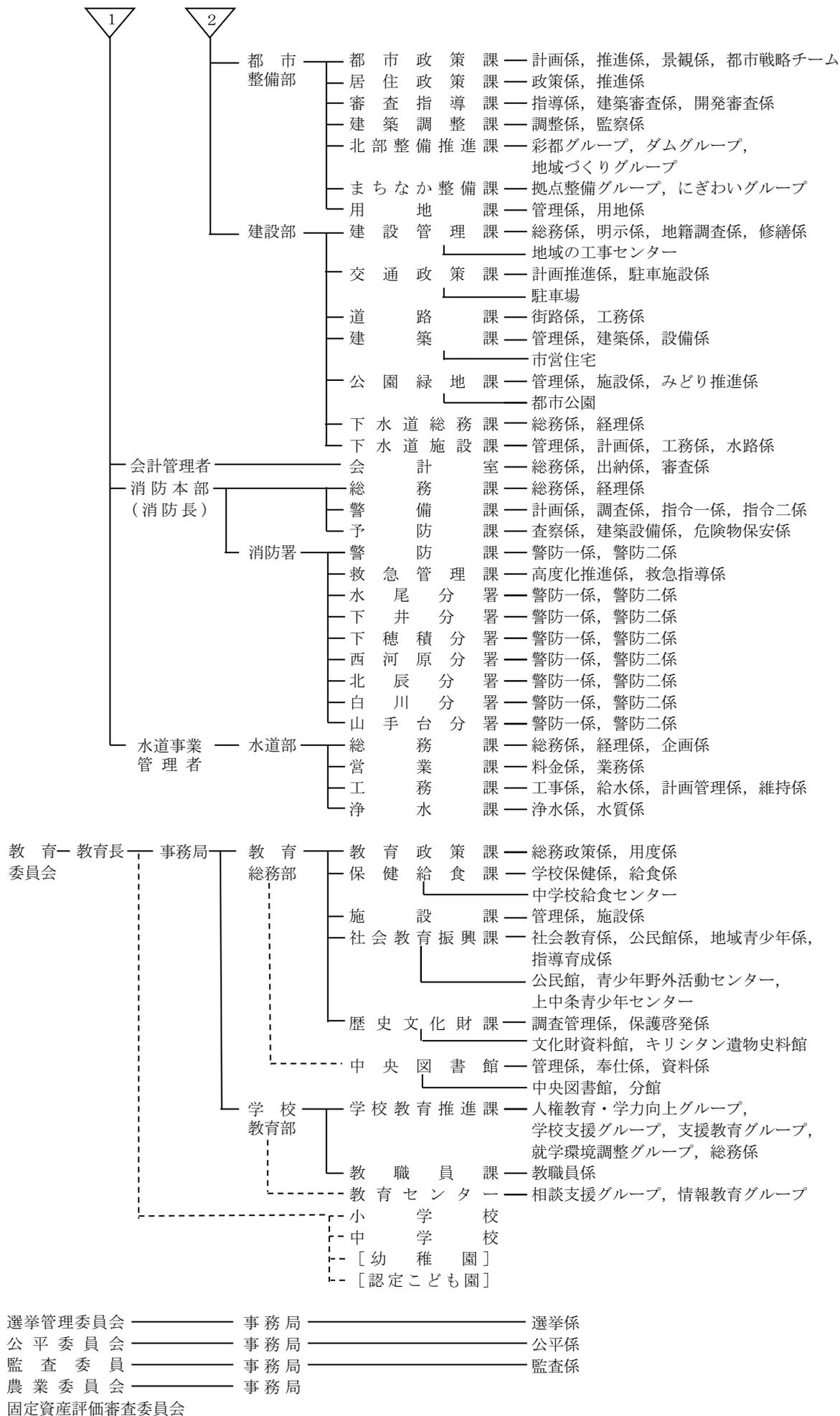
茨木市機構図

令和8年1月31日現在





組織表 14部77課165係37グループ



【基本目標 1】

まなびづくり

◇ 基本目標

I	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしなが、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習へのきっかけづくり
		①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習センター等の生涯学習関連施設において、多様な分野における市民向け講座の充実を図ります。また、興味や関心を持つことができ、様々な対象者が参加しやすい日程とテーマを設定した講座の開催を検討します。 ● 産官学民の様々な機関が実施されている機能を包括的に統合し、市民が生涯学習を実施していくためのプラットフォームづくりを進めるとともに、大学や民間事業者（企業）等と連携して、専門的な内容や特色ある講座を開催します。 ● 様々な学習機会や行政等が実施する公開講座等の情報提供に努めます。

◇ 事業内容

1	事業名	財政状況等の公表事務事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	財政課			
	再掲	-						
	事業内容	より多くの市民に、市の財政運営や状況等について関心を持ってもらうために、よりわかり易くタイムリーな財政情報を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	ホームページの更新	回	27	21	14	17	15
	②	広報誌への掲載	回	5	5	2	3	2
	③	小・中学校の社会科授業との連携	回	2	2	2	2	2
	④	高校の社会科授業との連携	回	0	1	1	2	2
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A ホームページや広報誌を活用して、予算・決算等をはじめ市の財政運営や状況等について情報をタイムリーに提供できている。小・中学校の社会科授業については、これまでどおり資料の提供を行うことで連携し、また、高校との連携については、出前授業を二回実施し、財政運営等に関心を持ってもらう機会となるよう取組むことができた。					
	課題	小・中・高等学校の社会科授業との連携については、アンケートを実施し資料等への意見をいただいております、意見を参考にしながら今後も継続して行く必要がある。						
	今後の方向性	ホームページについては、よりわかりやすいページ作成に努める。社会科授業との連携については、引き続きアンケートの結果を踏まえながら事業を継続する。						
	2	事業名	生涯学習センター出前講座実施事業					
担当課		(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
再掲		3 まちづくり、(3)地域課題解決のための生涯学習の充実						
事業内容		市内で活動されている団体等が、自発的に学びたいメニューを選択できるよう、市の様々な事業や施策について講座を受けられるように出前講座を実施する。						
活動実績		名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
①		出前講座メニュー数	件	117	119	115	124	130
②		出前講座実施件数	件	132	272	795	818	850
③		出前講座受講者数（延人数）	人	2953	9176	61662	33348	50000
④								
R6年度の取組内容及び成果		評価	B 市民等が多様な分野における市の事業や施策について学ぶ機会が提供できるように、令和6年度は令和5年度よりも出前講座メニューを増加した。また、受講者数の多い消防関連講座にて受講生が減少したことにより受講者総数は減少しているが、実施回数は増加しており、多くの団体が出前講座を活用している。					
課題	引き続き、市の多様な事業や施策について学ぶ機会が提供できるよう、講座情報の発信を行う必要がある。							
今後の方向性	各課の講座情報を集約し、講座情報の発信を行う。							

3	事業名	生涯学習センターきらめき講座等実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	生涯学習を学びたい人が、様々な分野の講座を選択できるようにきらめき講座等や各種主催事業を実施します。また、大学や企業等が持つ知的財産を市民が学ぶことができるよう、連携講座を実施します。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	きらめき講座受講生(延人数)	人	20426	25386	15903	28422	28500
	②	きらめきホール事業数	件	7	9	11	7	12
	③							
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	A						
		きらめき講座を通年、前期、後期と年間を通して開講し、受講者数はコロナ禍以前の水準に戻りつつある。きらめきホール事業は、グランドピアノの入れ替えに伴い、ピアノを使用するイベントの事業数が減少したが、新たなイベントとして、おとなと子どもが楽しめる吹奏楽演奏会を開催した。						
課題	教養・実技講座ともに様々な分野の講座を実施しているが、更なる充実のため、引き続き多様なニーズを情報収集し、学習機会の提供と学習促進につなげる必要がある。							
今後の方向性	多様なニーズの講座を展開できるよう、情報収集を行い、講座の開催を検討する。							
4	事業名	まちなかアートツアー						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	市内に設置されている彫刻や絵画等の芸術作品を市民に知ってもらうことにより、文化芸術を身近に感じてもらう機会とするため、「まちなかアートツアー」を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	参加者数	人	-	10	18	13	-
	②							
	③							
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	B						
		参加者が固定化してきていたが、本事業の参加者が他事業の参加してもらえなど、文化芸術を身近に感じる機会の提供の効果は挙げられたと考える。						
課題	-							
今後の方向性	当初の予定通り、令和6年度をもって本事業は終了とする。							
5	事業名	文化振興事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	文化関係団体や文化振興財団と連携して芸術文化に関する事業を実施することにより、広く市民文化の向上を図るとともに文化関係団体の活動を促進させる。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	文化振興事業参加者数	人	7707	12806	28236	31165	12000
	②	文化振興財団主催事業入場者数	人	4202	5685	8412	11585	5500
	③							
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	A						
		様々な団体や大学等と連携し事業に取り組み、特に、竜王戦の開催では、将棋連盟茨木支部、商工会議所、観光協会、文化振興財団、おにクル指定管理者と市が連携し、各団体の強みをいかした事業を展開しました。また、文化振興財団の主催する事業についてもおにクルに関連したものを含め、前年度に引き続き、事業数・参加者ともに目標を大きく上回る結果となりました。連携事業を実施するなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているため「A」評価とします。						
課題	市民と文化芸術をつなぐ人材を育成する事業を継続することで、文化芸術活動の活性化につなげるよう努める必要があります。							
今後の方向性	引き続き、多様な主体と連携した取組を継続する。							

6	事業名	少年少女合唱団育成活動事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	本市の音楽文化の振興と青少年の健全育成を図ることを目的に、吹奏楽や合唱において市民の音楽活動の充実に努めるとともに音楽文化の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	少年少女合唱団定期演奏会	人	無観客	522	613	800	650
	②	オータムコンサート	人	779	641	686	781	600
	③	スプリングコンサート	人	無観客	227	390	460	500
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
		少年少女合唱団定期演奏会は初めてのおにクルゴウダホールでの開催となり、多くの方にお越し来場いただいた。オータムコンサートでは、市内中学校の選抜バンドの演奏、市吹奏楽団との共演など、若い世代に音楽を通じた交流の機会を提供する事業にもなった。						
課題	スプリングコンサートの入場者数がオータムコンサートと比較すると少ないため、事業周知などの方法や広報活動を検証し、さらに効果的に実施することが必要である。							
今後の方向性	多様な世代の方に、演奏会を通じて音楽にふれてもらう機会を提供する。							
7	事業名	【再掲】川端康成文学館運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	多くの市民に川端文学に親しんでもらう拠点として、川端康成ゆかりの資料の展示等を行うことにより、教養を高め、市民文化の向上に寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	川端康成文学館入場者数	人	4336	9334	6093	5950	8000
	②	川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	369	627	622	656	700
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
		川端康成文学館において、若い世代をターゲットにした文学に親しむきっかけとなるような企画展を開催しました。また実施している文学講座の受講者数は、例年通り多くの方にお申込をいただいています。しかしながら、年間で複数回開催している展示の来館者数はコロナ前までの回復はできておらず、前年度から微減となっています。文学に関心が高くない方への訴求力のある取組がさらに求められるため、「B」評価とします。						
課題	文学館について、過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方、とくに若者世代などへ訴求力のある、文学に親しむきっかけとなるような取組が必要です。							
今後の方向性	より多くの世代の方に文学館に足を運んでもらうよう、学生や若年世代をターゲットとした講座や展示などの企画をさらに検討し、効果的な広報を検討します。							
8	事業名	【再掲】地域における男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	地域における男女共同参画を促進するため、地域と協働して男女共同参画の推進に資する講座等の実施及び市民の自主的な男女共同参画活動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	市民協働企画講座開催回数	回	83	104	101	100	100
	②	市民協働企画参加人数	人	1559	1774	1782	1789	1800
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
		ローズWAM 1階の喫茶跡スペースを活用しての「WAMcafe」や講座やワークショップの企画を募集する「WAMチャレンジ企画」といった市民が自ら企画した男女共同参画に資する事業や公益活動事業の実施が増加し、多くの方に利用していただいた。						
課題	喫茶跡スペースについては、男女共同参画に関する事業や公益活動のために定期的に利用していただくとともに、新たな利用者にも企画を実施していただき、新たな視点を取り入れる必要がある。							
今後の方向性	喫茶跡スペースの利活用について大学に情報提供を行い、若年層の視点や専門的な視点を取り入れた事業展開を行う。							

9	事業名	【再掲】スポーツ団体・指導者育成事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、スポーツを支える指導者等の人材の育成を行うとともに、スポーツ関係団体や老人クラブ等の地域に根ざして活動する団体、大学、企業等、関係団体と連携・協働することにより生涯スポーツ環境の充実を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	生涯スポーツ指導者養成講習会参加者数	人	30	92	29	32	50
	②	少年スポーツ指導者研修会参加者数	人	41	19	47	34	50
	③							
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	多様化する市民のスポーツニーズに対応した正しいスポーツの知識や技術の習得に寄与した。また、スポーツ関係団体間の連携、協働事業により市内のスポーツ活動の活性化が図れた。						
課題	スポーツ関係団体の活動人材が不足しており、また団体の運営を担う人材も高齢化している。							
今後の方向性	さらなるスポーツ活動の充実を図るため、協働イベントの開催などによりスポーツ関係団体間の連携を強化する。また、その担い手である指導者の確保・育成に取り組む。							
10	事業名	生涯スポーツ推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	身体を動かす楽しさを体感することにより、運動やスポーツの習慣化を図るため、体育協会やスポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ等の関係団体と連携し、幼児から高齢者を対象としたスポーツイベントなどを開催します。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	キッズスポーツフェスタ	人	-	750	1424	1343	1500
	②	ウォーキング講習会	人	71	68	69	38	50
	③							
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	幼児から青少年から働き世代、高齢者まで幅広い世代のニーズに応じて参加できるスポーツ機会が充実した。						
課題	さらなるスポーツ機会の充実が求められている。							
今後の方向性	引き続き市民一人の身体の状態に応じて多様な参加ができるようスポーツ機会の充実を図る。							
11	事業名	生涯学習スポーツ推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	幼児から高齢者まで幅広い世代の市民が、スポーツを楽しめる環境づくりを図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	市民総合スポーツ大会参加者数	人	6766	10340	10372	10852	13000
	②	地区スポーツ・レクリエーション大会	人	51	10864	24143	22716	25000
	③	オーバスシステムの登録者数	人	13306	13092	13401	13693	15000
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	幼児から青少年から働き世代、高齢者まで幅広い世代のニーズに応じて参加できるスポーツ機会が充実した。						
課題	さらなるスポーツ機会の充実が求められている。							
今後の方向性	引き続き市民一人の身体の状態に応じて多様な参加ができるようスポーツ機会の充実を図る。							

12	事業名	一般介護予防事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	-						
	事業内容	住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進し、要介護状態になっても生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指す。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	はつらつ教室参加人数	人	2562	3556	4345	4229	4300
	②	出張講座等参加延人数	人	1374	3514	5518	5363	5950
	③	街かどデイハウス外介護予防事業参加延人数	人	587	0	0	0	0
	④	介護予防健康運動教室	人	1686	2520	2785	-	-
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
課題	地域でつながりを持ちながら、住民自らが、自身の健康状態の把握と介護予防に取り組める環境が必要である。							
今後の方向性	関係事業所との連携等により、地域で介護予防に取り組める環境づくりの研究が必要である。							
13	事業名	環境教育・啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	将来を担う子どもたちをはじめとする幅広い市民を対象に、環境に関する学習会・研修会・観察会等を開催し、環境保全意識を高め、環境行動につなげていく。実施にあたっては、市が直接実施するほか、環境教育ボランティアや市内環境保全活動市民団体と協働する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	テーマ設定型環境教育講座開講数	回	1	-	1	1	1
	②	環境教育ボランティア・サポーター登録人数	人	56	58	52	56	70
	③	小学校向け環境学習プログラム活用校	校	13	6	8	8	10
	④	こどもエコクラブ登録者数	人	48	35	34	73	50
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
課題	講座の実施を増やしていくことを検討し、環境学習の提供機会を増やしていく必要がある。							
今後の方向性	環境学習を提供する機会を増やしていくことを目指し、引き続き環境教育ボランティアや市内の環境保全活動市民団体と協働していく。							
14	事業名	環境フェア開催事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	本市の環境の現状などをわかりやすく情報提供し、これからの市域環境を市民とともに保全・創造する契機の間とするため、市民団体や事業者の参画のもと、市民一人ひとりが取り組むべきことを、催し物などを通じて分かりやすく紹介し、環境への理解を深める場とする。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	来場者数	人	-	4100	5200	6700	7000
	②	屋内行事参加団体数	団体	19	24	28	30	30
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
課題	開催会場を、来館者の多いおにクルに変更したことで来場者数は増加しているが、広報の仕方やコーナー及びワークショップの内容を検討する必要がある。							
今後の方向性	環境啓発に関するイベントの適切な開催方法を模索しながら、多様なコーナー及びワークショップを提供できるように検討していく。							

15	事業名	家庭系ごみ減量推進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	循環型社会の形成に向け、市民がごみの減量化に関する理解を深めるための啓発を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	出前講座	回	0	7	16	16	14
	②	ごみ分別アプリ ダウンロード数(累計)	件	42275	52239	62353	72226	82000
	③	フードドライブ	個	1407	1773	1310	1273	1300
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
		広報誌・ホームページ・ごみ分別アプリ等による積極的な発信や、小学生や地域を対象とした出前講座により、ごみ減量化や再資源化にかかる周知・啓発に努めた。また、フードドライブの実施により市民の自発的なごみの減量活動を促進した。ごみ分別アプリ等によるダウンロード数は確実に伸びており、フードドライブについては、職員対象に食料品のみでなく日用品も含め実施し定着してきている。						
課題	一般廃棄物処理基本計画の減量目標達成に向け、重点施策である食品ロス削減やプラスチックごみ削減等について、さらなる取組が必要である。							
今後の方向性	引き続き、広報誌・ホームページ・ごみ分別アプリ等による積極的な発信や、小学生を対象とした出前講座の実施などにより、周知・啓発に努めるとともに、食品ロス削減、プラスチックごみ削減や再資源化可能物の分別の徹底等について重点的に取り組んでいく。							
16	事業名	【再掲】ライフスタイルの省エネ化推進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	省エネ化を推進するため、イベントや広報媒体を活用して、省エネ活動につながる啓発を行うとともに、市民に省エネナビ（家庭用電力使用量測定機器）の貸出しと、地球温暖化防止を目的に電気・ガス等の使用量を記録し家庭での二酸化炭素排出量を計算する環境家計簿の普及の促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	環境家計簿に関する市民講座開催数	回	10	7	7	7	10
	②	環境家計簿に関する市民講座参加者数	人	111	161	143	86	150
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
		市内で各環境保全活動に取り組む市民団体と協働し、市民参加型の事業を実施した。また、環境家計簿を作成し、その普及促進を行った。						
課題	定員に対して参加者が少ない講座がある。							
今後の方向性	引き続き、講座内容や実施時期、周知方法等を見直し及び検討を行っていく。							
17	事業名	青少年野外活動センター運営事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年の健全育成のために、自然体験や集団生活の機会を提供するとともに、青少年が自然に親しみ、仲間作りやボランティア活動等を楽しみながら体験することで、より豊かな人間性を身に付けるための学習機会を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	年間利用者数	人	4859	6816	7816	7800	8000
	②	主催事業数	事業	6	10	11	11	12
	③	主催事業の参加人数	人	523	1300	1522	2047	2100
	④	稼働率	%	54.5	63.3	61	61	65
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
		大規模リニューアルを行うなど安心安全な環境整備を行った。また主催事業の充実を図るなどして様々な体験活動の機会を提供した。						
課題	50年経過した施設、広大な施設に広がる森林など整備が行き届いていないため、引き続き安心安全な環境を整える。							
今後の方向性	適切な環境整備を進めながら、引き続き、教育キャンプの意義、非認知能力の向上のため更なる体験活動の機会を提供できるよう努める。							

18	事業名	社会教育事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	知識の習得とともに自らの学習と実践を通じて自主的活動の充実と地域の連帯意識を高めることを目的に、各種講習会を開催する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	講座等の開設数	回	156	187	161	160	160
	②	講座等の参加者数	人	1152	973	1293	1483	1100
	③	成人祭参加率	%	57.8	55.3	73.1	73.4	60
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
		参加者数が増加する中、順調な講座実施を進めることができた。						
課題	識字・日本語教室事業については、多文化共生事業との連携・協力を進めていく必要がある。							
今後の方向性	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するため、社会情勢の変化に応じた実施形態や手法を検討していく。							
19	事業名	中央公民館講座実施事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	社会教育の観点から、市民の学習機会の充実を図るため、生涯学習センターを活用した少人数での学習体制による日本語読み書き学級や市民ニーズに対応する講座を開催するほか、現代的な課題、地域課題に応じた事業にも取り組む。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	日本語読み書き学級実施回数	回	29	35	34	35	35
	②	日本語読み書き学級受講者数(延べ人数)	人	281	319	320	432	400
	③	公民館長等研修会	回	1	1	1	1	1
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
		日本語読み書き学級については、コロナ禍の影響もなくなり、受講者数は増加しているが、引き続き少人数体制で実施することで、受講者のニーズに合わせた指導を行うことができた。 公民館長等研修会については、健康問題をテーマにした企業連携講座を体験してもらうことで、地域課題解決の取組を共有することができた。						
課題	日本語読み書き学級については、受講者数の増加に加え、多国籍化も進んでいることから、指導可能な講師を新たに獲得していく必要がある。							
今後の方向性	受講者のニーズに応えられる学習体制を整えながら、日本語読み書き学級を実施する。							
20	事業名	【再掲】家庭教育支援事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	家庭教育を支援するために学校と連携しながら、保護者同士が交流し学びあう家庭教育学級の開設や、家庭教育講座等学習機会の提供等を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	講習・講座の開設数	回	112	135	142	7	21
	②	講習・講座の参加者数	人	1208	1506	1523	142	210
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
		参加者負担軽減のために事業手法を見直した。開設数及び参加者数については見直しに伴い集計方法を変更している。						
課題	家庭教育学級については、事業委託形式の見直しを図るなど、参加者負担軽減の取り組みを行ったが、参加者数の減少傾向が続いている。							
今後の方向性	ICTの活用や関係団体との連携等を進めながら、社会的課題を踏まえた学習機会の提供に努めるとともに、新たな実施手法を検討していく。							

21	事業名	読書推進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	市域全体で乳幼児から高齢者まで、物語や読書を楽しむことができるよう、学校や関係施設、関係課と連携し、環境の整備・機会の提供を行い、読書活動を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	読書推進行事参加者数（おはなし会参加者数を除く）	人	3778	2177	1850	2075	2000
	②	おはなし会参加者数	人	2519	7046	11937	14138	14000
	③	職場体験・図書館見学受け入れ学校数	校	8	19	31	33	30
	④	特集コーナー企画数	回	340	442	485	570	550
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A おはなし会や、読書推進行事などの取組により、市民が本や物語に出会う機会を増やすことができた。多言語絵本を活用し、おにクルぶっくばーくや、庄栄図書館、穂積図書館で、多言語おはなし会やえほんひろばを開催した。また、中央図書館に、読書バリアフリーコーナーを新設し、PRに努めた。これらの取組により、誰もが読書を楽しむことのできる環境の整備を進めることができた。こどもをとりまく社会環境の変化に対応するため、「第3次茨木市子ども読書活動推進計画」を改定し、今後の方向性を示すことができた。					
課題	引き続き、誰もが読書を楽しめる環境の整備を図るとともに、「第3次茨木市子ども読書活動推進計画 改定版」に沿って、取り組みを進める必要がある。							
今後の方向性	読書バリアフリーコーナーの資料及び多言語絵本を活用し、誰もが読書を楽しめる環境の整備を図る。また、「第3次茨木市子ども読書活動推進計画 改定版」に基づき、関係課等と連携し、こどもの読書活動を推進する。							
22	事業名	図書館利用促進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	より多くの市民に利用してもらい、利用者の教養、レクリエーション等に資することを目的に、市民との協働によりさまざまな行事や取り組みを行うとともに、市民の利便性の向上のため、サービス拠点の充実など、図書館サービス網の整備を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	利用促進行事参加者数（ロビー展示を除く）	人	796	2647	4367	3562	4000
	②	返却ポスト返却冊数	冊	143478	170134	178739	187965	180000
	③	広域利用貸出冊数（茨木市民が他市で利用した冊数）	冊	20015	24527	24132	23017	24000
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 行事参加者数はR5年度に行ったおにクル開館に向けた事業の参加者数を差し引くと増加した。各館での連携事業や共催行事の実施・他団体開催のイベントへの移動図書館ともしび号の展覧を積極的に行ったことにより、図書館を利用していない市民に図書館サービスをPRすることができた。					
課題	ボランティアや関係機関との協働や連携を通じて、図書館利用の促進を継続的に図る必要がある。							
今後の方向性	行事内容や対象者の見直しを図りながら、各館で「共創」を意識した連携事業を引き続き実施し、図書館を利用していない市民に向けた図書館利用を促進する。							
23	事業名	【再掲】富士正晴記念館事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	郷土の作家富士正晴氏に関する資料の収集・整理・保存を行い、冊子の刊行や、整理資料の公開、講演会（年1回）を実施し、文化芸術の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	記念館来館者数	人	3093	3527	4154	3440	3500
	②	講演会参加者人数	人	37	39	28	27	30
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 来館者数は減少したが、企画展・講演会・こども向けイベントの開催、移動図書館ともしび号出展時におけるクイズの実施、及び企画展に関連する図書の特集を中央図書館で行い、幅広い市民に記念館を知ってもらうとともに、富士正晴の実績や魅力を発信することができた。					
課題	郷土の作家である富士正晴について知らない市民が多く、認知度が低い。							
今後の方向性	富士正晴の文学活動における交流がわかる冊子を作成し、広く郷土ゆかりの作家「富士正晴」と「富士正晴記念館」の周知を図るとともに、引き続きこども向けイベント等を実施することにより、富士正晴の魅力発信に取り組む。							

24	事業名	応急手当普及啓発活動事業						
	担当課	(部名)	消防署	(課名)	救急管理課			
	再掲	-						
	事業内容	応急手当の普及活動を行う事により、心肺蘇生法ができる人の増加を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	救命講習等受講者数	人	2526	7277	11022	10415	15000
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 令和5年度と同程度で推移しており、団体からの講習依頼に関しても昨年同様であるが、目標には届いていない状況である。					
課題	災害現場担当職員が普及啓発も兼務している状況にあり、受講者数の頭打ちが考えられる。子育て世代の受講希望に対して、乳幼児と一緒に参加出来る定例講習会の開催が困難な状況にある。							
今後の方向性	令和7年度において、子育て世代の方が乳幼児と一緒に参加できる、乳幼児向けの救急講習の実施を検討中である。							

◇ 基本目標

I	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしなが、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習へのきっかけづくり
		②多様性を尊重した生涯学習へのきっかけづくりの推進
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 人生100年時代の到来や超高齢社会が進む中で、生活課題の一つでもある健康問題に対応できるよう、健康の維持・増進を図っていくための健康づくりに関する生涯学習活動を推進します。 ● 人権、多文化共生、男女共同参画、環境、消費者問題、防災・減災等、現代的・社会的課題に対応した、多様な講座や事業を開催します。 ● 高齢者、働く世代、子育て世代、外国人等、すべての人々が自己実現をめざし、自由に学びの機会を得られるよう、学びやすい機会の提供に努めます。 ● 障害のある人が、教育やスポーツ、文化等の多様な生涯学習活動を行うことができるよう、活動内容等を含めた環境整備に努めます。 ● 子どもが夢や希望をもてる社会を実現するため、すべての子どもに対し、キャリア教育等の包括的な支援を推進します。 ● 親子のふれあい活動などの充実を図り、家庭の教育力を高める活動を推進します。

◇ 事業内容

25	事業名	声の広報、点字広報の発行						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	視覚障害者や高齢者等を対象とした広報誌の音訳版「声の広報いばらき」や点字版「広報いばらき」を発行する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	声の広報登録者数	人	24	24	23	24	24
	②	点字の広報発行部数	部	243	216	216	204	204
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 声の広報、点字広報を滞りなく発行し、生涯学習情報含め市政情報の提供を行った。声の広報については、利用者が記事を探しやすくなるよう、掲載項目の細分化を行った。					
課題	利用者が減少傾向にある。							
今後の方向性	必要な方にご利用いただけるように周知を図り、わかりやすい情報発信に取り組む。							
26	事業名	消費者教育推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	市民生活相談課			
	再掲	-						
	事業内容	学校教育関係者、消費者団体、市民団体、事業者など多様な消費者教育の推進主体者とともに、イベント、出前授業などのあらゆる機会を通じ、消費者の基本的な権利と責任、契約の重要性などを理解し、消費者被害の未然防止、社会や環境への影響にも配慮した物の選択、活用ができる消費者の育成を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	広報誌・消費生活センターニュース等発行回数	回	22	22	19	15	15
	②	出前講座・くらしのセミナー等受講者数	人	1052	2594	2596	2964	3000
	③	消費生活展等のイベント参加者数	人	2135	1821	2495	2329	2000
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 年代に合わせた出前講座や消費生活展、講師を招いた講演会、消費者協会と協力した啓発イベントに加え、オンライン型消費生活展などデジタル技術を活用した取り組みを併用し、多くの市民への啓発を進めることができた。また、スマホをきっかけとしたトラブルが増加する中、高齢者向けにはシニア向けスマホ教室を開催し、若年層向けには中学校の地域学習授業や大学での出張相談会を実施するなど、世代ごとのニーズに応じた取り組みを行い、効果的に対応した。					
課題	全国的にも認知症等の高齢者や障害のある方の消費生活相談件数が増加傾向にあるが、相談は本人以外から寄せられる場合が多いことから、各種関係機関と連携し、本人だけでなく、家族やその支援者等もターゲットとした消費者教育や啓発活動の取組が引き続き必要である。また、スマホ教室はNPO団体や民間事業者、市などさまざまな主催者によって運営されており、料金も有料・無料が混在している状況を踏まえ、今後の実施方法について改めて見直しを検討する必要がある。							
今後の方向性	消費者問題は生活全般に関わる重要な課題であり、刻々と変化する社会の状況に応じた取り組みが求められます。各世代への継続的な対応が必要となる中で、ターゲットや状況に合わせて最も適切な手法を選び、市民の学習機会を確保できるよう努める。							

27	事業名	生涯学習センター一時保育事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	子育て世代等の方が生涯学習に取り組むことができるよう、センターの保育室にて一時保育を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	保育人数	人	266	234	112	91	100
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
		令和5年度から引き続き、子育て世代等の方がきらめき講座をはじめとした主催講座やイベントに自由に参加できるよう、一時保育の実施を行った。						
課題	令和5年度の利用者数と比較すると、利用者数が減少傾向にある。							
今後の方向性	引き続き、一時保育利用者には継続的に利用していただけるよう保育サービスの提供を行うとともに、一時保育検討している方等に、きらめきフェスタ等を通じて生涯学習センターの保育事業を体験する機会を設ける。							
28	事業名	地域国際化推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	市内で生活する外国人が生活しやすいよう、市民ハンドブック等の刊行物の多言語化や、外国人も日本人も共に生活できる環境づくりを行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	多言語版等生活ガイドブック配布数	部	1078	765	794	762	800
	②	国際交流事業参加者数（協会事業参加者含む）	人	673	1445	2131	3134	2000
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
		<ul style="list-style-type: none"> 生活ガイドブック（英語・中国語・やさしいほんご）の内容を更新し、庁内主要窓口課、大学等へ配布し広く周知を行った。 市内高校、大学、団体、市多文化共生担当課と連携し、国際交流の集いへの在住外国人の参加を促し、外国人参加者の増加を図ることができ、多文化共生の取組を充実させることができた。 						
課題	在住外国人との交流促進や異文化理解を深めるため、イベント等への外国人参加者を増加させる取組を関係団体等と連携して行う必要があります。外国人施策に関わる庁内及び各種団体との連携、調整を図りながら、情報の共有、発信を行い、コーディネーター機能を強化する必要があります。							
今後の方向性	在留外国人との交流を促進するイベントについて、関係団体と調整し、内容の充実を図るとともに、外国人参加者を増加させるために、より効果的な周知に努めます。							
29	事業名	姉妹都市等との交流事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	海外や国内の姉妹都市等との市民レベルかつ、さまざまな分野での交流を促し、他地域の文化の理解を深める。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	訪問・代表団等交流人数（協会事業参加者含む）	人	-	31	119	96	90
	②	宿泊施設利用補助制度利用者数（小豆島町）	人	60	183	219	186	250
	③	宿泊施設利用補助制度利用者数（竹田市）	人	44	90	95	91	120
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
		コロナ禍で中止していた小豆島町への市民訪問団の再開、ミネアポリス市民訪問団の受入れ等、直接的な交流の機会を増やすことができた。ミネアポリス市とはオンラインミーティング等、コロナ禍で浸透したICTを活用した交流を継続し、多様な交流の機会を確保した。						
課題	姉妹都市関係にある都市との交流を促進するため、市民訪問団をはじめとした茨木市国際親善都市協会事業への参加者を増加させ、市民レベルでの交流を図り、市民の関心を高めることで互いの文化の理解を深める必要があります。							
今後の方向性	姉妹都市との交流を継続するとともに、市民レベルでの交流が盛んになるよう、事業や制度の周知に努めます。							

30	事業名	女性の活躍促進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	男女共同参画社会の実現を目指して、「女性活躍推進法」及び「第2次男女共同参画計画（改訂版）」に基づき、更なる女性の活躍推進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	関連講座参加者数	人	54	47	77	63	90
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 女性活躍に資することを目的に家計管理・経済用語の知識、資産管理のセミナーを実施した。現在の生活を省みるとともに、将来に渡っての資産のあり方等が理解できたとの声があった。					
課題	本年度は基礎的な家庭生活における内容に加え新NISA等の資産形成の考え方に繋がる内容とした。今後はさらに実際の活躍に繋がる内容についても検討していく必要がある。							
今後の方向性	就労やキャリアアップについては、商工労政課とも連携して内容を検討していく。また、市内企業の求人と求職のマッチングにつながるような分野で事業を行うことができないか研究する。							
31	事業名	茨木市人権センター補助事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 まなびづくり、(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進						
	事業内容	人権が守られた豊かで住みよいまちをめざし、憲法で保障された基本的人権尊重の精神に基づき、あらゆる差別をなくすよう市民の人権意識の普及・高揚を促進するため、各種事業を実施する茨木市人権センターに対し、市が補助金を交付することにより、人権尊重の社会づくりに寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	人権に関する講演会・バスツアー実施回数	回	3	6	7	7	8
	②	人権相談	人	62	30	35	40	40
	③	人材の養成講座の実施回数	回	3	3	4	4	4
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B ・講演会・市民人権講座・人権バスツアーでは、テーマ選定を工夫をして、参加者の増が図れた。 ・開催予定をしていた人権まちあるき、人権ファシリテータ養成講座を開催することが出来なかった。 ・人権相談の件数は、目標値の半数となったが、相手に寄り添い対応することで、継続的な繋がりを持つケースも複数あった。					
課題	人権センターの事業内容等について効果的な手法の検討が必要である。また、効果的な周知方法の検討が必要である。							
今後の方向性	引き続き、効果的な啓発を図るため、人権センターとの連携のもと、啓発手法及び周知方法の検討を進める。							
32	事業名	ローズWAM相談事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	3 まちづくりへの取組、(3)地域課題解決のための生涯学習の充実						
	事業内容	市民の、とりわけ女性の相談を様々な切り口で実施することを通して、市民生活をサポートする。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	女性相談件数	件	2113	2038	1964	1833	2000
	②	特別相談件数	件	110	110	99	128	120
	③	相談関係研修等参加者数	人	20	35	33	33	35
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 複雑化する相談内容に対応するため、関係部署や関係機関と連携したケース対応を行った。					
課題	複雑化する相談に対応して市民生活をサポートするため、相談員の知識・技術の向上が必要である。							
今後の方向性	相談件数の増加、相談内容の複雑化が予想されるなか、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行されたことに伴い、さらに関係部署や関係機関との連携を推進する必要がある。							

33	事業名	人権啓発推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	市民一人ひとりが人権尊重の精神を当然のこととして身につけ、日常生活において実践することにより、豊かな人権文化の創造をめざすため、相談への対応や冊子の発行、講演会や展示の実施等により、市民の人権意識の高揚に向けた啓発を行う。 また、多様化する人権課題の解決に向けて、毎年度重点課題を選択し、啓発に取り組む。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	啓発カレンダー・冊子	部	7400	7400	7400	7400	7400
	②	講演会来場者数	人	3051	699	712	1062	1000
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A ・冊子及びカレンダーを小学生児童及び中学生生徒に配布するとともに、各教室に掲示してもらい、身の回りの様々な人権課題に気づききっかけとなる情報を提供することができた。 ・講演会では、会場入場とオンライン配信を併用する手法により、参加者の確保に努めた。					
課題	職員への人権についての意識付けと各課での取組の促進を図る必要がある。							
今後の方向性	コロナ禍を契機としてオンラインでの研修を活用してきましたが、効果等を検証して、今後の研修形態を見直す。							
34	事業名	非核平和推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	「非核平和都市宣言」の趣旨の普及高揚を図り、核兵器廃絶と平和に関する市民の関心と理解を深めるため、非核平和展及びパネル展を開催するとともに、街頭啓発を行う。また、民間団体が実施する平和行動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	非核平和展来場者数	人	945	1011	980	2000	2000
	②	非核平和展入場者アンケートによる満足度(大変満足+概ね満足/アンケート総数)	%	96	89	86	90	90
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A ・非核平和展については、非核平和都市宣言40周年記念事業として、パネル展示等と合わせて講演会及び映画会をおこなって開催した。また、令和2年度以降、継続して提案公募型補助金を受けた関連団体と連携して実施した。 ・非核平和該当啓発キャンペーンについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止していた駅前での該当啓発を、令和5年度から非核平和啓発ポスターを路線バスや市内各所に掲示する手法に変更した。					
課題	戦争の記憶を風化させず、非核平和の尊さを若い世代に引き継いでいくため、また、現在起こっている世界の紛争等への関心を高めることについて、より効果的な内容や方法を検討し実施する必要がある。							
今後の方向性	非核平和展の来場者や市民意識の醸成、満足度の向上に向けて、市民の参加性を高めることで、より一層内容の充実を図る。							
35	事業名	高齢者いきがい推進事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	地域福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	高齢者の居場所と出番を提供できる事業の実施により、いきがいを有する生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	高齢者活動支援センター延利用者数	人	11707	20967	25110	27310	30000
	②	多世代交流センター延利用者数	人	46697	72199	82004	85756	92200
	③	いきいき交流広場参加者数	人	23193	34737	39863	42238	43000
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 高齢者活動支援センター及び多世代交流センターにおいて、各種講座を実施し、目標値以上の利用者数となった。また、いきいき交流広場においても、コロナ禍で減少していた利用者数が回復し目標値を上回った。					
課題	高齢者活動支援センター及び多世代交流センターにおいて、新型コロナウイルス感染症の終息とともに利用者数は大幅に増加している。新型コロナウイルス感染症拡大前までの利用者数以上の施設もあり、全体的には、コロナ禍以前の利用者数の約80%まで回復している。いきいき交流広場の利用者数に関しては、広場数の増減により単純な比較はできないが、コロナ禍以前の最大数と比べ約85%まで回復している。							
今後の方向性	コロナ禍以前以上の利用状況を目指して、講座内容の充実等を含めて利用者数の増加に努める。							

36	事業名	意思疎通支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	聴覚障害のある人とない人の意思疎通を図り、聴覚障害者の自立した生活や社会参加を支援する人材を育成することにより福祉の増進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	手話奉仕員養成講座	人	46	45	57	37	60
	②	手話奉仕員養成講座(ステップアップ講座)	人	11	24	18	47	40
	③	夏休みこども手話教室	人	10	30	37	28	40
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	A 手話奉仕員養成講座については、R6年度から既定の出席率をクリアできた方に終了証をお渡しする方法に変更し、その人数を記載しているため、実績は減っているが、参加者はR5年度の57人より多くなっている。 ステップアップ講座は、参加資格を手話奉仕員養成講座修了者と明確にすることで参加者増につながった。						
課題	夏休みこども手話教室は、状況に合わせて定員の増減を行っているが、今年度は定員より受講希望者が多く、受講できない児童・生徒が出ている。							
今後の方向性	R7年度は、夏休みこども手話教室の定員を増やし対応する。また、残念ながら受講できない児童・生徒をハートフル講座で手話にふれる機会をつくれぬか検討する。							
37	事業名	障害福祉センターハートフル施設運営事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	障害者の地域での自立した生活や社会参加の促進を図ることを目的に、指定管理者制度導入施設において、地域活動支援センターⅡ型、生活介護等を実施することにより、障害者福祉の増進に寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	ハートフル講座	回	56	119	128	120	125
	②	市民交流講座	回	30	68	64	46	50
	③							
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	A ○ハートフル講座/市内在住18歳以上障害者手帳保持者/延べ参加人数 卓球/138人、エアロビクス/130人、陶芸/71人、和太鼓/60人、絵画/72人、健康体操/227人、音を楽しむ/70人 ○市民交流講座/18歳以上の市民/延べ参加人数 アフリカンライブ/133人、ダンス講座/94人、音訳講習会/31人、手作り講座/24人、笑いヨガ講座/245人、スポーツ吹き矢体験講座/22人、手話体験講座/80人						
課題	交流講座での障害者以外の参加者を増やす必要がある。							
今後の方向性	現状の利用者の意見を聞きながら、障害のあるなしに関わらず参加したくなる、魅力的な内容と開催回数を検討していく。							
38	事業名	地域生活支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	障害者が地域で自立した生活ができるよう、必要な情報の提供や生活用具等の援助、移動支援等の日常生活、社会生活を営むために必要な事業を行うことにより、その生活の安定と向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	移動支援従業者養成研修	人	-	23	22	17	45
	②							
	③							
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	B 令和6年度は全身性障害課程7名、知的障害課程5名、精神障害課程5名が研修を修了。受講者数は例年より少なかった。						
課題	各コース定員が15名であるが、各コースとも人数が集まっていない。問い合わせは例年より多く、興味は持っていただけたようだが、申し込み数に反映はされなかった。							
今後の方向性	移動支援事業提供の事業所に対する周知の徹底に加え、市民への周知方法も検討していく。							

39	事業名	高齢者いきがい推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	-						
	事業内容	高齢者の居場所と出番を提供できる事業の実施により、いきがいを有する生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	街かどデイハウス利用者数	人	4520	1924	2242	2526	2000
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 利用者が参加しやすい教室、人気のある教室の実施回数を増やす等工夫し、利用者数の維持に務めた。街かどデイハウスから、コミュニティデイハウスへの移行に必要な支援を継続した。					
課題	事業所スタッフの高齢化により、人材の確保が難しくなっている。 コミュニティデイハウスへの移行において、実施場所が確保できない。							
今後の方向性	現在、事業を実施している街かどデイハウスは、令和8年度以降に、すべてコミュニティデイハウスへ移行する予定。 コミュニティデイハウスへの移行後も各種趣味活動や講座を開催していく。							
40	事業名	子ども・若者自立サポート事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	こども政策課			
	再掲	-						
	事業内容	ひきこもり・不登校等の状況にある子ども・若者が、状態改善できるよう、子ども・若者自立支援センターで、ひきこもり等の当事者や家族の相談支援を行う。 また、子ども・若者支援地域協議会を運営し、複雑・多様化する課題を抱えた子ども・若者の早期支援・早期困難解消に向けた体制の充実を図る。 さらに、子育て世帯訪問支援事業を実施し、ヤングケアラー家庭の家事・育児支援を行うことで、虐待リスク等の高まりを未然に防ぐ。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	スモールステップの段階（自立度）アップ率	%	96.9	97.8	98.2	98.3	95
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 茨木市子ども・若者支援地域協議会の構成機関を対象に、精神科の作業療法を専門とする外部講師を招き、不登校・ひきこもりへの支援力向上をテーマに講習会を開催した。福祉や教育等、様々な機関からの参加があり、参加者アンケートの結果は高評価であった。 子ども・若者自立支援センターにおけるスモールステップの段階（自立度）アップ率が昨年度と比べて上昇していることから、子ども・若者の状態改善を図ることができている。					
課題	令和7年度から新たな事業者が子ども・若者自立支援センターを運営するため、各支援機関との関係づくりを行う必要がある。							
今後の方向性	子ども・若者自立支援センター利用者の円滑な引継ぎを行うとともに、関係機関に新事業者の強みを周知することで、支援が必要な利用者となることができるよう取り組む。							
41	事業名	ふれあいまなび事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	中学及び高校の授業で生徒が子育て中の親子とふれあうことで、様々な子どもがいることを理解し、保護者の子育てへの思いや、子育てに関心を持ち、命の尊さを学ぶ機会を提供する。また、子育て中の親が次世代への子育て支援に貢献できる場を提供し、社会参加を促進させる。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	実施学校数	校	2	2	4	3	6
	②	参加組数	組	5	138	146	141	200
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B おにクルに移転したことで健診に来られた方やわっくりに遊びに来られた方に直接事業案内ができるようになった。子育て中の親が次世代への生徒に向けて実子と共に実体験を伝え、次世代を担う生徒の問いに答え、生徒が実際に乳児に触れることで命の尊さを実体験できる機会として意義のある場を提供できた。高等学校3校についてはそれぞれの授業カリキュラムに定着している。					
課題	実施校を増やしていく方向ではあるが、2学期の特定の時期を希望する傾向があるので参加していただく方の選択実施日の調整が課題としてある。 中学校は学年での取り組みとなり1日での実施となり参加募集数が多い。							
今後の方向性	中学校で実施されている「いのち」の学習への協力ができるように働きかけていく。							

42	事業名	お出かけ版お楽しみ広場事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	誰もが気軽に立ち寄れる商業施設の開放スペースに出向き、子育て親子が楽しめるイベントを行うことで、子育て情報を提供したり、相談できる場所の周知を図り、子育て不安や負担感の軽減を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	イベント開催回数	回	11	48	48	48	47
	②	参加者数	人	369	1668	1737	1846	1900
	③							
④								
R6年度の取組内容及び成果	評価	A						計画通りイベントを実施することができ、また従来の紙のチラシに加えて、SNSを通じた情報発信も積極的に行うことで参加者が増加してきている。
課題	就学前のこどもを対象に企画しているが、従来よりも0～2歳のこどもの利用が増えてきており、低年齢向けの企画をさらに検討する必要がある。							
今後の方向性	引き続き子育て親子が楽しめるイベントを行い、子育て情報を提供したり、相談できる場所の周知を図り、子育てにかかる不安や負担感の軽減を図り、令和7年度から新たにイオンタウン茨木太田においても実施する。また、参加者の低年齢化によるイベントの見直しを行う。							
43	事業名	一時保育事業・出前型一時保育事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	(一時保育事業) 一時的に保育が困難な乳幼児を預かることで、保護者の育児負担の軽減及び社会参加を促進させる。保護者の用事やリフレッシュ等の理由により、一時的に保育を行う。おにグルM2階の一時保育室「スマイル」にて月～土曜日午前9時から午後5時(第2第4月曜日(祝日の場合は火曜日)・12月29日～翌1月4日は除く)の間で30分単位で月4回まで利用することができる。 (出前型一時保育事業) 庁内各課または事前登録済の市民団体が主催する講座・講演会や審議会・検討会を開催する時に、子育て中の市民が参加しやすくなるため、一時保育室での保育や業務委託事業者から保育士等を派遣する保育を行い、参加者の乳幼児の一時的な保育を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	一時保育事業(スマイル)登録者数	人	421	623	1121	1650	700
	②	一時保育事業(スマイル)延べ利用数	人	1175	1958	4851	8776	9000
	③	出前型一時保育事業	件	443	580	551	254	質的充実
④								
R6年度の取組内容及び成果	評価	A						(一時保育事業) 要件に加えた就労理由での利用が多くなったが定員増をしているのでおおむね希望に沿った利用に繋がっている。当日枠を月5回に含まず別枠としたことで利用しやすくなった。また、日、祝日も運営することで、日、祝日実施の生涯学習に参加での利用につながっている。 (出前型一時保育事業) 子を持つ親が積極的に生涯学習に参加できる環境を整え、生涯学習を受ける機会を設けることができた。
課題	(一時保育事業) 就労理由で長時間の保育を希望される場合が増え食事対応、加えて定員増で特に日曜、祝日も実施しその日は0歳児～5歳児と幅広い保育提供となっている。また、日、祝日実施でその日は配慮、支援を要する児も多くなってきている (出前型一時保育事業) 保護者が安心してこどもを預けることができるよう、スタッフの保育知識や安全意識のさらなる向上をはかることで安全な保育環境を維持していく。							
今後の方向性	(一時保育事業) 安全、安心の保育環境を委託事業者と共有していく。また、誰でも通園制度との在り方を見極める。 (出前型一時保育事業) 民間事業者と情報の交換を行い、必要に応じて適正な事業を遂行できるようサポートすることで、保護者が希望する生涯学習の機会を保障しながら、安全な保育環境を整えることに努める。							
44	事業名	ファミリー・サポート・センター事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	地域において育児の援助を行いたい者と育児の援助を受けたい者が会員として登録し、相互扶助の精神に基づき行う援助活動を支援することで、仕事と育児の両立を図るとともに、地域で安心して子育てができる環境を整備する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	依頼会員	人	1129	1132	1124	1117	1150
	②	援助会員	人	248	237	242	243	250
	③	両方会員	人	196	176	156	163	170
④	活動件数	件	3096	3058	3091	2610	2500	
R6年度の取組内容及び成果	評価	A						会員には学習会や交流会等の開催を行い、子育て情報や子育て技術の内容だけでなく、文化的な内容や、日ごろのストレスからのリフレッシュ方法等の講習の機会を提供できた。
課題	援助会員数は減少傾向にあるものの、支援を必要とする会員の方への支援を行えた。ファミサポ体験会inわつくるの実施では、活動機会のない、または普段こどもと接する機会のない援助会員への機会提供を行い、活動への不安解消につながった。							
今後の方向性	援助会員の増加を図るとともに、活動していない会員が活動につなげていけるよう、依頼内容の精査工夫を行い、活動の活性化を図る。							

45	事業名	児童発達支援センター事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	発達支援課			
	再掲	-						
	事業内容	児童発達支援センターとして、日常生活に必要な療育支援サービスや地域相談支援サービス等を提供し、こどもの健全な発達を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	通所支援利用児数	人	11344	12010	12737	12923	12500
	②	地域支援相談件数	件	2519	2402	3121	2941	2500
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 通園児の欠席は少なくなり、目標件数を上回る一方で、相談件数が前年度より下回っている。					
課題	相談内容が複雑多様化しており、その対応に追われ職員への負担が大きくなっている。 相談支援専門員の資格を有する職員が少なく、次の担い手が育っていない。							
今後の方向性	有資格者を育成しつつ、人材派遣等を検討する。							
46	事業名	茨木地区人権推進企業連絡会事務						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	大阪府公正採用選考人権啓発推進員制度の円滑な推進を図り、企業における就職の機会均等をはじめ、人権問題の啓発に資することを目的とする茨木地区人権推進企業連絡会の事務局として、会員企業における従業員研修や推進員研修などを実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	従業員研修・推進員研修開催回数	回	5	7	7	7	7
	②	研修会受講人数	人	55	97	76	48	60
	③	事業所内研修用DVDの貸出本数	本	33	27	16	19	20
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 会員企業の人権問題啓発に関する研修会等の受講人数は昨年度に比べて減少したが、会員企業向けに貸出を行っている研修DVDの貸出本数は微増しており、一定の従業員の公正採用選考をはじめとする人権問題研修の機会は増加しているものとする。					
課題	受講者が固定化してきているため、研修メニューの工夫や、会員企業への研修会補助についての周知により、研修受講の機会を促進する必要がある。							
今後の方向性	研修の受講者数を増加させるため、オンライン研修の周知や、人権問題の多様化に応じた事業所内研修用DVDの購入及び外部研修の設定を行う。							
47	事業名	【再掲】雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施している。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	セミナー参加者数(延人数)	人	75	65	72	40	30
	②	啓発リーフレット(3回発行)の送付数(延数)	社	3300	3300	3300	3300	3300
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B セミナーについて、類似する目的で実施していたセミナーを統合したことにより、参加人数が昨年度より減少したが、事業者の課題に即した健康経営について実施したことにより、より効率的な啓発の機会とすることができた。					
課題	啓発リーフレットは、多くの市内事業所への啓発の機会となることから、関係機関と連携し内容を充実させていく必要がある。							
今後の方向性	三島地域4市1町の共同事業として実施してきたセミナーがR6年度をもって事業が終了したため、本市単独で実施するセミナーや啓発リーフレットの内容を充実させる。							

48	事業名	エコポイント制度実施事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	環境基本計画の環境像である「心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち」に向け一歩踏み出すよう促すため、環境教育への参加、省エネ行動などの環境配慮行動を行った市民に対し、エコポイントを発行し、景品との交換等ができる制度を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	エコポイント付与回数	回	35654	42717	77803	89560	85000
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B エコポイント制度について、年間を通じてイベント等での周知機会を増やしたため、応募数が増える結果となった。					
課題	いばライフのアカウント登録者数の増加に伴いポイント付与数は増加しているが、ポイント制度の参加者増加につなげていない。ポイント制度に参加しやすい運用や、制度自体の見直しを検討する必要がある。 また、紙でポイントを集めている市民にアプリへの移行を促す取り組みと、新規の参加者を獲得する取り組みが必要である。							
今後の方向性	エコポイント制度の内容の見直しも含めて、よりポイント制度に参加しやすいような制度設計を検討していく。							
49	事業名	再生資源集団回収報奨金事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみ減量に対する市民の意識向上を図るため、自主的に再生資源集団回収を行う地域住民団体等に対し、回収量の実績に応じて報奨金を支給する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	支給団体数	団体	427	431	428	422	425
	②	総回収量	t	6624	6338	5819	5416	5500
	③	報奨金額	千円	17519	17229	16597	15874	16500
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 市内のこども会、自治会、管理組合等に対して、集団回収の実施と報奨金支給団体登録を呼びかけ、地域における自主的な活動により、ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみ問題に対する市民の意識向上につなげることができ、市民一人当たりの回収率は全国平均を上回っている。					
課題	ペーパーレス化に伴う古紙回収量の減少等により、回収量は減少している。また、自治会等組織の減少や弱体化の風潮が、今後の集団回収の実施についても影響を与える可能性がある。							
今後の方向性	引き続き、雑がみの分別について周知するなど、資源物の分別の徹底について啓発するとともに、報奨金制度について広く周知し、より多くの団体に集団回収に取り組んでもらい、回収量は低下しても再資源化率を高めるよう努める。							
50	事業名	生ごみ処理容器等支援事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	市内居住者で、容器等を市内に設置し維持管理することなどを要件に、生ごみを減量化・堆肥化する生ごみ処理容器等の購入に対する補助金を支給し、家庭から排出される生ごみ減量化の促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	生ごみ処理容器等補助金交付数 電気式以外	基	30	54	22	14	40
	②	生ごみ処理容器等補助金交付数 電気式	基	90	61	83	98	110
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A オンライン申請の導入により申請者の利便性が向上したこともあり、電源を必要とする容器（生ごみ処理機）への補助金申請数が増加した。家庭から排出される生ごみを推計10t減量するとともに、ごみ減量化に対する市民の意識向上につなげることができた。					
課題	より多くの市民に利用してもらえるよう当制度を継続し、生ごみの減量化・堆肥化による家庭から出るごみの減量について意識啓発に努める必要がある。							
今後の方向性	引き続き、広報誌への定期的な掲載などにより、周知・啓発に努め、ごみの減量化につなげる。							

51	事業名	既存民間建築物耐震化啓発事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	居住政策課			
	再掲	-						
	事業内容	地震災害から市民の生命及び財産を守るため、民間の住宅や特定建築物の耐震化に対する市民意識の向上を図るため、情報提供や知識の普及を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	木造住宅耐震化フォーラム	回	2	1	2	2	2
	②	出前講座	回	1	1	0	0	1
	③	建築相談会	回	5	5	4	6	5
	④	分譲共同住宅耐震化フォーラム	回	1	1	2	4	4
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A					
		情報提供、知識の普及を行うことで、耐震化に対する市民意識が向上した。						
課題	-							
今後の方向性	引き続き、情報提供や知識の普及に努める。							
52	事業名	交通安全対策事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	交通政策課			
	再掲	-						
	事業内容	交通事故の撲滅を図るため、幼稚園・小中学校等での交通安全教室を実施するとともに、交通安全推進団体に対し交付金を付与する。また、自転車乗用中の転倒による頭部損傷の重大事故から身を守る、自転車乗用ヘルメットの着用を広く市民に啓発推進する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	交通安全教室等の実施(回数)	回	111	120	138	136	140
	②	交通安全教室等の実施(参加者)	人	35269	35921	37467	39537	37000
	③	自転車乗用ヘルメット購入費補助金の交付(補助人数)	人	-	-	150	1501	2000
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の参加者数が増加し、広く市民に啓発を行った。 全市民を対象に自転車乗用ヘルメット購入費補助金を交付し、ヘルメット着用者の増加に努めた。 						
課題	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の実施について案内したが開催に至らない団体がある。 交通安全教室を実施していない子育て世代・働く世代に対し、交通ルール等について啓発する必要がある。 							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 当事業への理解と重要性について、引き続き関係団体へ周知する。 自転車乗用ヘルメットの着用率向上に向け、自転車乗用ヘルメット購入費補助事業に加え、効果的な啓発に努める。 							
53	事業名	教育課題調査研究事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	学校が直面する今日的教育課題(情報、理科、言語、特別支援等)について実践例の収集や教材開発などの調査研究を行い、研究成果をフォーラムや研究紀要で発信し、学校教育の充実及び、本市の教育の質の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	教育センターフォーラム	人	154	60	75	30	50
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B					
		教育センターフォーラムで、茨木市不登校児童生徒支援室「ふれあいルーム」の取組及び小学校低学年児童に対して実施している算数チャレンジの周知を行うことができた。						
課題	多様化する教育課題に応じた内容を行っていく必要がある。							
今後の方向性	第6次計画茨木っ子プラン ミつくるの内容を発信し、児童生徒が意欲的に学べる情報提供・周知を行う。							

54	事業名	教育相談指導事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	教育に関する不安や悩みを抱えた幼児・児童・生徒、保護者や教員に対して、医師等の専門家や相談員による適切な指導・助言などの支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	幼児、児童生徒、保護者に対しての相談	回	1353	1453	1445	1429	1400
	②	専門医等による特別教育相談	件	37	37	37	37	37
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	教育に関する不安や悩みを抱えた幼児・児童・生徒、保護者や教員に対して、医師等の専門家や相談員による適切な指導・助言などの支援を行うことができた。					
A								
課題	多様化する教育課題に応じた相談を行っていく必要がある。							
今後の方向性	引き続き相談者に寄り添った適切な指導・助言を行っていく。							
55	事業名	相馬芳枝科学賞実施事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	本市の科学教育振興のため、市内小中学生の自然科学・情報技術に関する自由研究を募集し、優れた作品の展示・表彰を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	展示作品数	点	136	139	187	178	170
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	受賞者とその保護者、学校関係者の参加による表彰式と応募作品すべての展示を行った。					
A								
課題	市立中学生、私立小・中学生の応募者数が少ないため、広く情報提供・周知していく必要がある。							
今後の方向性	科学賞の意義などを発信し、児童生徒が意欲的に取り組み、探究心を育むことができるような情報提供・周知を行う。また、児童生徒の学びや励み、観覧者が科学に親しむ機会につながるような取組を実施する。							
56	事業名	火災予防推進事業						
	担当課	(部名)	消防本部・消防署	(課名)	予防課			
	再掲	-						
	事業内容	火災を未然に防止するため、火災予防広報を充実する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	'目標(R7)
	①	火災予防運動に伴うイベント	回	0	2	2	2	2
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	秋季春季に実施される全国火災予防運動に伴い、火災予防広報の一環として11月には消防署開放デー、3月には春の消防フェアを実施しました。ターゲットを子育て世代としイベントに参加してもらうことで火災予防について興味を持ってもらうきっかけづくりとなるよう取組みました。					
B								
課題	昨今救急件数の増加等によりイベントの実施にかかる人員確保が困難となっています。消防体制を確保しながら安全に実施するため、職員の動員及びイベント内容について、小規模でも満足度の高いものとしていく必要があると考えます。							
今後の方向性	令和7年度も消防体制に影響がない範囲で年2回を目標に火災予防広報イベントを実施していきます。							

◇ 基本目標

I	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしなが、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(2)自己を高めるための学び直しへの支援
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会人が学び直しのできる機会を充実させるため、大学や民間事業者（企業）との連携を強化し、学習ニーズを踏まえた生涯学習の機会を提供します。 ● すべての市民のキャリア向上を図り、今後の職業に活かすことができる多様な学習機会の提供や支援方法を検討します。 ● めまぐるしく変化する社会情勢に対応できるよう、市民が社会を担う力を高め、自己を高めることのできる生涯学習の機会を提供します。

◇ 事業内容

57	事業名	雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	1 学びづくりへの取組、(1)生涯学習へのきっかけづくり、②多様性を尊重した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施している。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	セミナー参加者数(延人数)	人	75	65	72	40	30
	②	啓発リーフレット(3回発行)の送付数(延数)	社	3300	3300	3300	3300	3300
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B セミナーについて、類似する目的で実施していたセミナーを統合したことにより、参加人数が昨年度より減少したが、事業者の課題に即した健康経営について実施したことにより、より効率的な啓発の機会とすることができた。					
	課題	啓発リーフレットは、多くの市内事業所への啓発の機会となることから、関係機関と連携し内容を充実させていく必要がある。						
	今後の方向性	三島地域4市1町の共同事業として実施してきたセミナーがR6年度をもって事業が終了したため、本市単独で実施するセミナーや啓発リーフレットの内容を充実させる。						
58	事業名	【再掲】生涯学習センターきらめき講座等実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	生涯学習を学びたい人が、様々な分野の講座を選択できるようにきらめき講座等や各種主催事業を実施します。また、大学や企業等が持つ知的財産を市民が学ぶことができるよう、連携講座を実施します。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	きらめき講座受講生(延人数)	人	20426	25386	15903	28422	28500
	②	きらめきホール事業数	件	7	9	11	7	12
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A きらめき講座を毎年、前期、後期と年間を通して開講し、受講者数はコロナ禍以前の水準に戻りつつある。きらめきホール事業は、グランドピアノの入れ替えに伴い、ピアノを使用するイベントの事業数が減少したが、新たなイベントとして、おとなと子どもが楽しめる吹奏楽演奏会を開催した。					
	課題	教養・実技講座ともに様々な分野の講座を実施しているが、更なる充実のため、引き続き多様なニーズを情報収集し、学習機会の提供と学習促進につなげる必要がある。						
	今後の方向性	多様なニーズの講座を展開できるよう、情報収集を行い、講座の開催を検討する。						

◇ 基本目標

I	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしなが、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(3) ICTを活用した学びの場の提供
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを利用した学習が増えていることに伴い、いつでも、どこでも学習できるよう、スマートフォンやパソコン等を活用した学習機会の提供に努めるとともに、公共施設でのインターネットの環境整備を進めていきます。また、電子通信機器に不慣れな方を対象にした講習会などの実施に取り組むとともに、インターネットを利用しない市民に対しても配慮に努めます。 超高齢社会を見据え、大学や民間事業者（企業や病院など）で実施している講座等を、インターネットを活用し、市民に公開することのできる環境づくりを検討します。

◇ 事業内容

59	事業名	広報誌等発行事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	市民に市政やまちの情報等を提供するため、「広報いばらき」を発行する。また、転入者等に市政の概要や市の魅力をわかりやすく紹介するため、市民ハンドブック等の広報刊行物を発行する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	広報誌発行部数	冊	1632200	1648400	1667800	1681300	1687200
	②	市民ハンドブック	冊	8000	8000	8000	8000	-
	③	市勢要覧	冊	3000	0	0	3000	-
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 広報誌に多くの講座講習の記事を掲載したほか、市民ハンドブックに生涯学習に関する施設情報等を掲載し、市民に生涯学習に係る情報提供を行った。広報誌は7月号からリニューアルを行い、ホームページのページIDを掲載してホームページとの連携強化を図るほか、イベント情報のカテゴリ分けの見直し等を行った。					
課題	-							
今後の方向性	デジタル化の進展等の社会情勢の変化を踏まえ、必要な情報を探しやすく、読みやすい広報誌等の作成に取り組む。							
60	事業名	生涯学習センターインターネット環境整備事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	インターネット環境が完備できていない方が、センターに設置しているパソコンを利用して資料検索や生涯学習に関する情報を収集することができるよう、ネットワーク環境を管理する。また、利用者が持つICT端末からインターネット上の学習コンテンツ等が利用できるようにするため、センターの全フロアにて利用できる公衆Wi-Fiを管理する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	情報コーナー利用件数	件	2080	3545	1854	2020	2100
	②	館内フリーWi-Fi接続数	件	8297	22531	15897	-	22000
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A インターネットを利用できない方が学習情報等を収集する情報コーナーの利用者件数は、令和5年度と比較すると利用者数が増加した。また貸室や交流コーナー等に設置した共用エリアの公衆Wi-Fiについては学生等の利用も多い傾向にあり、幅広い世代に利用していただく傾向にある。					
課題	タブレットやスマートフォンの普及により情報コーナーの利用者ニーズが減少していることから、情報コーナーの利用に応じたサービスを検討する必要がある。							
今後の方向性	情報コーナーの利用実態に応じたパソコン等の配置について検討する。							

61	事業名	生涯学習センターICT講座事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	ICT機器を利用した学習方法の増加により、ICT端末を活用した講座を実施する。また場所や時間に捉われない学習ができるよう、オンデマンド配信等を活用した講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	ICT関連講座開催数	件	154	177	128	171	180
	②	ICT関連講座延人数	人	1589	2001	1614	1728	1800
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	引き続き、デジタルデバイド解消に向けICTを身近なものとして感じてもらう機会を提供するため、ICTに馴染みのない方や自分のスマホ能力向上をしたい方を対象に、アプリの内容別の講座等を開催した。また、ワードやエクセル等のパソコンスキル向上に向けて、きらめき講座にて前期・後期講座を開講した。					
課題	引き続き、デジタルデバイド解消に向けた講座を開催するとともに、ICTスキル向上に向けた講座を開講する必要がある。							
今後の方向性	引き続き、ICTに馴染みのない方にも関心をもってもらえる講座の企画を行うとともに、すでにICTに興味がある方に向けたICTスキル向上につながる講座も企画・実施していく。							

◇ 基本目標

I	基本目標	1 まなびづくり
		<p>すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。</p> <p>また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。</p> <p>生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。</p>

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(4)生涯学習の情報提供と相談窓口の充実
		①生涯学習センター等による情報提供及び相談窓口の充実
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習センター等の生涯学習関連施設において、様々な学習情報を提供することにより、市民の学習活動を支援します。 ● 生涯学習に関する相談や問い合わせに対して、生涯学習事業やグループ・サークル、教育機関などによる学習活動の情報が提供できるよう、生涯学習センターにおける機能の充実を図ります。

◇ 事業内容

62	事業名	情報ルーム管理運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	市民生活相談課			
	再掲	-						
	事業内容	市政に関する情報の積極的な提供を図るため、各種行政資料や市政刊行物等を情報ルームに設置し、市民の閲覧に供する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	閲覧資料、パンフレット設置数	種類	578	522	294	287	-
	②	有償刊行物販売数	部	304	259	54	28	-
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 各種行政資料や市政刊行物等を情報ルームに設置し、市民の閲覧に供することで市政に関する情報の積極的な提供を図った。					
	課題	-						
今後の方向性	引続き、市政に関する情報の積極的な提供を図る。							

◇ 基本目標

I	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(4)生涯学習の情報提供と相談窓口の充実
		②電子媒体等を含めた多様な媒体を活用した情報提供の推進
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● メールマガジン、SNS、市公式総合アプリ（いばライフ）などの電子媒体を活用し、いつでも、どこでも、新たな生涯学習の情報を入手できる環境整備を進めます。 ● 電子媒体を活用していない市民に対しても、情報誌、広報誌、チラシ等を活用し、講座やイベント等の生涯学習情報を提供します。また、掲載方法を工夫し、対象に応じた情報提供を行います。

◇ 事業内容

63	事業名	生涯学習センター情報提供等実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	広報誌・市ホームページ・生涯学習情報誌「Next Stage」等を通じて、様々な生涯学習関連情報の提供を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	生涯学習情報誌発刊	冊	12900	12900	12900	12900	12900
	②	Next Stage情報掲載数	件	432	587	582	614	630
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A Next Stageの情報掲載数は関係課や団体等からの生涯学習情報が増加したことにより、様々な生涯学習関連情報を発信することができた。また、より多くの市民が生涯学習機会を得ることができるよう市ホームページ等にて情報発信に努めた。					
課題	引き続き、生涯学習情報誌発行に係る情報収集の充実に努め、更なる生涯学習情報を発信し、生涯学習情報を必要とする人に周知をする必要がある。							
今後の方向性	関係課及び団体等の生涯学習情報を収集及び発信するとともに、情報誌発行までに掲載できなかった講座やイベントについては、追加情報として収集し、インターネット等を活用して情報発信を行う。							
64	事業名	パブリシティ活動事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	市内外に向け、市政情報の周知や市の魅力をPRするため、新聞やテレビ等のマスメディアを活用し情報を発信する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	新聞社等のマスメディアへの記事提供数	件	139	168	152	149	140
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 報道機関への記事提供を行い、マスメディアによる情報発信につなげることができた。					
課題	報道機関により多く取り上げてもらえるよう、提供内容等に工夫することが重要である。							
今後の方向性	市政情報・地域情報について、積極的に報道提供を行う。							

65	事業名	ホームページ・SNS運営事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	最新の市政情報を広く市民に素早く提供するため、市ホームページの適切な管理・運営を行うとともに、だれもが利用しやすいようにコンテンツの充実を図る。また、SNSの持つ双方向性を活かした積極的な情報発信を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	ホームページアクセスユーザー数	人	約3,836,000	約3,288,000	約3,036,000	約3,058,000	3100000
	②	SNS投稿件数	件	498	469	403	458	450
	③	Facebook及びX(旧Twitter) フォロワー合計数	人	18077	18744	19337	20264	20,500
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A ホームページ及びSNSで、生涯学習情報を含む市政情報の提供を行った。 ホームページにおいては、ページIDを広報誌の記事に掲載することにより、広報誌との連携を強化した。					
課題	時代の変化に対応し、閲覧者が見やすく、必要な情報にたどり着きやすいホームページの運用が重要である。							
今後の方向性	誰もが必要な情報を探しやすく、わかりやすいホームページの運用に努める。							

◇ 基本目標

I	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしなが、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域の公民館やコミュニティセンター等の生涯学習関連施設において、市民が身近な場所で、自由な時間帯に、主体的に学習活動を行うことができる環境の確保や、持続可能な社会づくりの担い手を育てるための学習活動を推進します。 ● 生涯学習センターの運営のあり方について、生涯学習拠点施設の機能がさらに充実するよう、指定管理の導入も視野に入れ、検討を行います。

◇ 事業内容

66	事業名	スポーツ施設管理運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、市民が安全に安心して快適にスポーツ活動ができるよう、市民体育館・市民プール及び運動広場等の適切な管理・運営を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	グラウンド利用者数(フットサル場を含む)	人	326157	433507	423060	403727	500000
	②	テニスコート利用者数	人	173762	239891	231826	225238	250000
	③	市民体育館(4館)利用者数	人	237442	305701	333774	304654	350000
	④	市民プール(夏期除く)利用者数	人	29213	41321	38063	37142	42000
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 市内スポーツ施設の効率的・効果的な運用を行うことができた。					
課題	市内スポーツ施設が全般的に老朽化しており、多額の修繕費や更新費が発生している。							
今後の方向性	今後、市民のスポーツ活動の動向やニーズを勘案して、スポーツ施設の適正化の検討を進める。							
67	事業名	資料情報収集提供事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的に、図書、視聴覚資料、データベース等記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、市民の利用に提供する。また読書案内やレファレンス・サービス(調べもの支援)などで、利用者に必要な資料を結びつける。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	蔵書冊数	冊	1263106	1266627	1268932	1285570	1250000
	②	貸出点数	点	3236933	3570988	3476804	3419437	3450000
	③	録音図書・点字図書所蔵状況	タイトル	2555	2560	2667	2979	3000
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 貸出冊数の減少については、貸出人数(R5:804,037人、R6:830,033人)は増えていることから、生活環境等の変化により、一人当たりの読む冊数が減少しているものと考えられる。市が開催する起業セミナーで、図書館のビジネス支援サービスの紹介を行ったり、誰もが必要な情報を得ることができるよう、デジター図書や多言語絵本の充実を図ったりすることで、貸出人数の増加につながった。					
課題	DXに対応した情報提供や、ビジネス支援をさらに推進する必要がある。誰もが必要な情報を得たり、読書を楽しめるよう、やさしい日本語で書かれたよみものや、多言語絵本の拡充を推進する必要がある。							
今後の方向性	郷土行政資料のデジタル化や、ビジネス支援に活用できるデータベースの拡充を行い、関係機関等に利用促進の周知を行うとともに、引き続き、多言語絵本等の充実を図る。							

68	事業名	ローズW A Mにおける男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	男女共同参画社会の実現に向けて、市民と協働して、各種事業の実施や情報収集及び提供等、センターの運営を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	ネットワークギャラリー図書貸出冊数	冊	4889	5073	5453	3993	5000
	②	貸館利用率	%	48.5	47.2	48.3	49.2	50
	③	貸室利用者数	人	44669	65081	72451	76111	77000
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B おにクルの開館に伴い利用者の減や利用率の低下を危惧したが、来館者数・利用率とも増加傾向が見られた。おにクルぶっくばーくの開館に伴い図書貸出冊数は低下した。					
課題	貸室利用で来館される市民に対して、男女共同参画に関する情報を提供し、意識を高めるきっかけとなる仕掛けを用意する必要がある。							
今後の方向性	講演会や主催行事の開催にあわせて図書の特集展示を行うなど、館の特色を活かした図書の利活用を工夫することにより貸出冊数の増加を図る必要がある。また、図書以外の媒体の活用も含めて、より効果的な情報提供や学習活動の支援について検討する。							
69	事業名	【再掲】いのち・愛・ゆめセンター運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	社会福祉法及び基本的な人権尊重の精神に基づき、地域交流及び住民福祉の向上をめざし、市民に対する人権啓発を推進し、人権課題の解決を図り、人権が尊重される社会の実現に資することを目的に、各種事業や、地域交流、情報収集、貸館等を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	施設利用者数	人	63988	90423	93233	104948	100000
	②	センターニュース発行部数	部	87000	89400	99100	93400	94000
	③	講座等参加者数	人	5407	7705	6786	8747	9000
	④	まつり参加者数	人	268	1509	2159	2042	2200
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B まつり等地域交流行事を開催し、ようやくコロナ禍前の状況を超える人数の参加を得るようになった。また、多文化共生の推進に向けて、外国人住民への学びと交流の場の提供、サポーターの育成等も継続して行った。					
課題	多文化共生支援に取り組む各課との連携を図るとともに、地域社会での外国人住民の孤立といった昨今の課題に対応できるよう外国人住民への情報提供や相談体制を強化、また、外国人住民の活躍の場を提供する必要がある。							
今後の方向性	人権尊重の視点を軸とした上で、時世の住民ニーズに敏感に対応し、求められる事業の試行等を積極的に取り組む。							
70	事業名	【再掲】茨木市人権センター補助事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	人権が守られた豊かで住みよいまちをめざし、憲法で保障された基本的な人権尊重の精神に基づき、あらゆる差別をなくすよう市民の人権意識の普及・高揚を促進するため、各種事業を実施する茨木市人権センターに対し、市が補助金を交付することにより、人権尊重の社会づくりに寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	人権に関する講演会・バスツアー実施回数	回	3	6	7	7	8
	②	人権相談	人	62	30	35	40	40
	③	人材の養成講座の実施回数	回	3	3	4	4	4
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B ・講演会・市民人権講座・人権バスツアーでは、テーマ選定を工夫をして、参加者の増が図れた。 ・開催予定をしていた人権まちあるき、人権ファシリテータ養成講座を開催することが出来なかった。 ・人権相談の件数は、目標値の半数となったが、相手に寄り添い対応することで、継続的な繋がりを持つケースも複数あった。					
課題	人権センターの事業内容等について効果的な手法の検討が必要である。また、効果的な周知方法の検討が必要である。							
今後の方向性	引き続き、効果的な啓発を図るため、人権センターとの連携のもと、啓発手法及び周知方法の検討を進める。							

71	事業名	市立ギャラリー運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	美術作品を展示することにより市民の美術に関する創作及び鑑賞活動を促進し、美術を通じて市民文化の振興を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	入場者数	人	14432	18163	17598	16253	17000
	②	市立ギャラリー稼働率	%	65	82	75	64	70
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 新型コロナウイルスの影響が落ち着いた令和4年度と比較し、入場者数はやや減少傾向にあり、一年を通じた安定的な利用という点では改善できる余地がまだあるように見受けられる。					
課題	市立ギャラリーの利用者や来場者数が減少しているため、利用促進の手法の検討が必要である。							
今後の方向性	令和7年度よりギャラリー企画展業務を茨木市文化振興財団に委託しているが、引き続き、さらなる市民の創作・鑑賞活動の促進に向けて、管理運営業務のアウトソーシングを含めた運営手法の検討する。							
72	事業名	上中条青少年センター運営事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年の情操を養い、教養の向上及び健康の増進を図るとともに、自主的、組織的な青少年活動を助長することによって、青少年及び青少年団体の健全な育成及び人権文化の高揚を図るため、体験活動や文化的交流行事を実施するとともに、自主的・組織的な青少年活動を支援するため、貸館事業を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	利用者数	人	29643	41236	121960	114798	122000
	②	貸室稼働率	%	56.3	60.6	55.9	55.6	60
	③	センター主催事業参加人数	人	855	871	1124	1177	1200
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B センター主催事業については、工作を中心に実施し、多彩な体験活動の機会を提供することができた。 ふれあいコンサート等については、HPや広報誌を活用することで、多くの子どもたちに文化的な学びを提供することができた。					
課題	子どもに関心を持ってもらえるセミナー等を企画・検討するため、引き続き大学生や関係団体と連携を図る。							
今後の方向性	青少年にかかわる社会情勢の変化に応じ、事業の企画や効果を見直しながら、青少年の体験活動の充実を図る。							

【基本目標 2】

ひとづくり

◇ 基本目標

I	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習活動団体等への支援
III	取組内容	● 生涯学習活動団体や「社会教育の推進を図る活動」、「まちづくりの推進を図る活動」、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」、「子どもの健全育成を図る活動」などの様々な活動を行っているNPO法人等に対し、市のイベント情報の提供や、生涯学習活動団体が情報を発信する機会の提供に努めます。

◇ 事業内容

73	事業名	【再掲】茨木市廃棄物減量等推進員活動促進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	各自治会等からの推薦により廃棄物減量等推進員を委嘱し、市から推進員に定期的に情報提供（推進員ニュース年6回発行）を行うことにより、推進員を地域のリーダーとして各地域におけるごみの減量化と再資源化、災害時の一般廃棄物の分別を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	見学会・研修会	回	1	2	3	2	2
	②	廃棄物減量等推進委員人数	人	407	400	401	399	405
	③	推進員ニュース配布数	部	3228	3273	3722	2873	3830
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	C 令和6年度は2年ごとの改選のタイミングであったことから市内全ての自治会宛に推進員の推薦依頼を行っているが、目標人数には達していない。推進員ニュースについては発行を年6回から4回にしたため、配布数が減少している。委嘱時に茨木市のごみの現状や活動内容等を示した手引きにて制度の説明を行うとともに、ダンボールコンポストや食品ロスに関する研修会の実施により、ごみ減量や再資源化について意識啓発を図れた。					
課題	自治会構成員の高齢化や自治会の未結成などにより、推進員の推薦が困難な地域があり、また、活動内容にも地域差が見受けられる。自治会未結成な地域については、地域の各種団体からの選出も視野に入れ、推進員の人数確保を検討する必要がある。							
今後の方向性	地域での推進員の効果的な取組を推進員ニュース等を通じて周知し、ごみの減量と再資源化への協力を促すとともに、推進員の選出率の向上をめざす。 今後、推進員の意向を確認しつつ、知識及び意欲の向上に資する取組を検討していく。							
74	事業名	青少年活動・育成事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	こども会をはじめとした青少年団体等や、これらの青少年を育成する組織が活発な活動を展開するための情報や活動機会の提供に努め、青少年教育活動の推進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	こども会結成数	こども会	172	158	137	123	105
	②	こども会加入率	%	26.4	22.4	18.6	15.8	13
	③	こども会サポーター登録者数	人	41	44	26	28	30
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 茨木市こども会育成連絡協議会と連携し、こども会加入促進のための事業を実施したが、地域の実情により、こども会を継続することが困難なこども会があるため、こども会結成数、こども会加入率は減少した。					
課題	少子化や共働き世帯の増加等の社会情勢の変化により、こども会結成数、こども会加入率ともに減少傾向にある。							
今後の方向性	育成者の負担軽減を図る方策を検討するとともに、こども会加入のきっかけとなる取り組みを茨木市こども会育成連絡協議会と連携し、提供していく。							

◇ 基本目標

I	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(2)学びの成果の活用とボランティア活動団体への支援
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習センターにおけるきらめき講座等の講座受講後の継続的な学習や活動を支援します。 ● 学びや体験の成果を活かし、指導者として活躍する機会を提供できるよう、生涯学習センターボランティア講師による講座や、放課後子ども教室、公民館・コミュニティセンター等の講師など、出番づくりを支援します。 ● 生涯学習センターにおいて、市民活動センターやボランティアセンターなどの関係機関と連携を図り、ボランティア活動の支援に努めます。

◇ 事業内容

75	事業名	生涯学習参画事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	個人や団体が培った知識・経験を広く還元できる場を提供し、学習成果を活かした幅広いジャンルの学習参画機会を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	ボランティア講座実施件数	件	22	16	27	30	30
	②	ランチタイムコンサート開催数	件	44	49	35	50	50
	③	きらめきフェスタ参加者数	人	1728	2889	3116	3658	3800
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	<p>B</p> <p>個人等が培った学びや体験等の成果を発表や指導者として活躍する機会として、ボランティア講師による講座の実施や公募で演奏者等を募るランチタイムコンサートを実施し、参画する機会を提供した。また、きらめきフェスタでは令和5年度の参加者を上回り、参加者の学習の場の提供やこれから学習する人の新たな発見に繋がる機会を提供した。</p>					
課題	引き続き、個人や団体が日頃培った知識や経験を還元できる場を提供し、学習参画する機会を提供する必要がある。							
今後の方向性	新たな個人講師等を発掘するために、ボランティア講師等の募集について情報発信を行う。またこれまで学習してきた人が新たな活躍の場を発見できる機会について検討する。							

◇ 基本目標

I	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(3)地域人材の発掘と活用
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会で生涯学習活動を行っている方を、地域人材として発掘するとともに、その地域人材が地域社会で生涯学習活動を推進していくことができるよう、指導者として育成、養成することのできる仕組みづくりを検討します。 ● 障害のある人や高齢者、外国人など、すべての人々が生涯学習活動を実施することができるよう、支援者の育成や学びの機会の提供を検討します。

◇ 事業内容

76	事業名	スポーツ団体・指導者育成事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、スポーツを支える指導者等の人材の育成を行うとともに、スポーツ関係団体や老人クラブ等の地域に根ざして活動する団体、大学、企業等、関係団体と連携・協働することにより生涯スポーツ環境の充実を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	生涯スポーツ指導者養成講習会参加者数	人	30	92	29	32	50
	②	少年スポーツ指導者研修会参加者数	人	41	19	47	34	50
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 多様化する市民のスポーツニーズに対応した正しいスポーツの知識や技術の習得に寄与した。また、スポーツ関係団体間の連携、協働事業により市内のスポーツ活動の活性化が図れた。					
課題	スポーツ関係団体の活動人材が不足しており、また団体の運営を担う人材も高齢化している。							
今後の方向性	さらなるスポーツ活動の充実を図るため、協働イベントの開催などによりスポーツ関係団体間の連携を強化する。また、その担い手である指導者の確保・育成に取り組む。							
77	事業名	高齢者関係団体育成・支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	地域福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	高齢者のために事業を展開する様々な団体を育成・支援することにより、高齢者の多様なニーズに対応し、充実した生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	老人クラブ会員数	人	6278	6081	5617	5354	5400
	②	はつらつバス使用実績	件	29	63	89	85	117
	③	シルバー人材センター会員数	人	1567	1574	1660	1735	1712
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	C コロナ禍以後、利用が減少していたはつらつバス供与事業について、使用数は回復傾向にあるが依然として少なく、高齢化によって利用が難しくなっているクラブがあるなど、老人クラブの会員数は毎年減少の一途をたどっている。					
課題	高齢者世代になっても働き続ける人が増加するなどの社会背景の変化もあり、60歳代をはじめ老人クラブ加入者が著しく減少傾向にある。各単位老人クラブを中心に会員増強に努めているが、担い手の高齢化、その他会員数の自然減少により、思うように効果が得られていない。担い手の不足により解散となるクラブも増えている。また、茨木市老人クラブ連合会を運営している理事の高齢化が進む一方で、新たな担い手の育成がうまくいっていない。							
今後の方向性	今後どうすれば老人クラブとその活動に興味を持ってもらえるか引き続き検討していく。また、今後も事業を継続するために、茨木市老人クラブ連合会を運営している理事や老人クラブの会長等、後継者の育成に力を入れていく。							

78	事業名	茨木市廃棄物減量等推進員活動促進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	2 ひとつり、(1)生涯学習活動団体等への支援						
	事業内容	各自治会等からの推薦により廃棄物減量等推進員を委嘱し、市から推進員に定期的に情報提供（推進員ニュース年6回発行）を行うことにより、推進員を地域のリーダーとして各地域におけるごみの減量化と再資源化、災害時の一般廃棄物の分別を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	見学会・研修会	回	1	2	3	2	2
	②	廃棄物減量等推進委員人数	人	407	400	401	399	405
	③	推進員ニュース配布数	部	3228	3273	3722	2873	3830
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	令和6年度は2年ごとの改選のタイミングであったことから市内全ての自治会宛に推進員の推薦依頼を行っているが、目標人数には達していない。推進員ニュースについては発行を年6回から4回にしたため、配布数が減少している。委嘱時に茨木市のごみの現状や活動内容等を示した手引きにて制度の説明を行うとともに、ダンボールコンポストや食品ロスに関する研修会の実施により、ごみ減量や再資源化について意識啓発を図れた。					
課題	自治会構成員の高齢化や自治会の未結成などにより、推進員の推薦が困難な地域があり、また、活動内容にも地域差が見受けられる。自治会未結成な地域については、地域の各種団体からの選出も視野に入れ、推進員の人数確保を検討する必要がある。							
今後の方向性	地域での推進員の効果的な取組を推進員ニュース等を通じて周知し、ごみの減量と再資源化への協力を促すとともに、推進員の選出率の向上をめざす。 今後、推進員の意向を確認しつつ、知識及び意欲の向上に資する取組を検討していく。							
79	事業名	社会教育関係団体育成事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	社会教育関係団体の活動を促進し、社会教育の振興を図る。社会教育関係団体等を対象とした後援等により支援する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	後援件数	件	38	60	71	85	70
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 団体が行う事業への後援については、昨年度と比較して増加するなど、社会教育活動の支援につなげることができた。					
課題	事業後援を通じた継続的な社会教育活動への支援。							
今後の方向性	後援事務の適切な執行により、社会教育関係団体の活動支援を図る。							

【基本目標 3】

まちづくり

◇ 基本目標

I	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(1)地域社会の教育力の活用
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 各小学校において、地域住民の参画を得て放課後子ども教室を実施し、遊びや学習、体験活動の機会を通して子どもたちに安全・安心な居場所の提供に努めます。また、大学生等に子どもと関わる機会を提供するため、放課後子ども教室でのボランティア体験の充実に努めます。

◇ 事業内容

80	事業名	学童保育事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	学童保育課			
	再掲	-						
	事業内容	保護者が子育てと就労を両立できるよう、小学校に通う児童に安心して利用できる放課後等の居場所を提供する。また、放課後子ども教室と連携することにより、児童が多様な体験・活動を行うことができ、地域社会全体で児童の健全育成を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	開設保育室数（クラス数）	室	70	71	74	80	82
	②	待機児童数（一斉受付申請分）	人	0	0	0	0	0
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	<p>B</p> <p>学童保育室として利用するための場所の確保について、各小学校や公共施設と調整を行い、その結果、一斉受付における待機児童を発生させることはなかった。 また、保護者の長期休業期間のみの保育ニーズに応えるために、夏季休業期間の預かり事業を引き続き実施することができた。</p>					
課題	待機児童を発生させないために場所及び指導員の確保が必要である。 対象学年の拡充に向けたスキームの検討が必要である。							
今後の方向性	学童保育室の新築や増改築等の実施に加え、小学校や教育委員会等と調整し、余裕教室や周辺施設を借用することにより教室を確保する。また、民間事業者に対する補助を実施し、民間事業者も含めた場所の確保を行い、待機児童が発生しないよう対策を図る。 対象学年の拡充に向けてモデル実施等のスキームを検討する。							
81	事業名	放課後子ども教室推進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	放課後等に子どもたちの安全で健やかな居場所を確保するため、地域住民の参画を得て、子どもたちと諸活動に取組み、地域社会全体で地域の子どもたちを見守り育むことができるよう、啓発と活動の充実を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	実施校数	校	18	32	32	32	32
	②	実施日数	日	200	1167	2066	2058	2100
	③	放課後子ども教室への児童登録率	%	36.6	49.6	54	60	60
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	<p>B</p> <p>令和5年度以降、通年で実施することができており、子どもたちの安全・安心な居場所を提供することができた。 また、スタッフを対象とした教室の見学会と、こども理解に関する研修を実施し、各校区の取組等に活かす情報を共有することができた。</p>					
課題	実行委員会の役員等、スタッフの高齢化が進んでおり、新たな人材確保について検討していく必要がある。							
今後の方向性	引き続き、安全・安心な居場所の提供に努める。							

◇ 基本目標

I	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(2)学校、家庭、地域組織・団体の連携促進によるコミュニティづくりの推進
III	取組内容	● 地域社会における生涯学習に関する様々な資源を有効に活用し、学校・家庭・地域組織・団体がそれぞれの役割を果たしながら互いに連携し、地域社会のコミュニティづくりに努めます。

◇ 事業内容

82	事業名	市立幼稚園子育て支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	保育幼稚園総務課			
	再掲	-						
	事業内容	園舎・園庭を開放し、在園児や職員及び未就園児親子同士の活動を通して保護者同士の交流を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	園庭開放参加人数	人	1104	1983	2459	2359	2000
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 園舎・園庭を開放し、在園児や職員及び未就園児親子同士の活動を通して、保護者同士の交流を図り、子育て支援を図ることができた。					
	課題	園庭開放事業の周知を積極的に実施する必要がある。						
	今後の方向性	園庭開放時に相談が多いことから、引き続き園庭開放を実施する。						
83	事業名	市立保育所子育て支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	保育幼稚園総務課			
	再掲	-						
	事業内容	保育所を開放し、在宅の親子と保育所の子どもたちや地域の人々との交流を促進し、在宅の親子を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	ともだちひろば（園庭開放）	件	114	197	233	213	200
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 園庭開放により、こどもや保護者の居場所づくりに努め、子育て支援を図ることができた。					
	課題	園庭開放事業の周知を積極的に実施する必要がある。						
	今後の方向性	園庭開放時に相談が多いことから、引き続き園庭開放を実施する。						

84	事業名	利用者支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与するため、子ども及びその保護者等、または妊娠している方がその選択に基づき多様な教育、保育施設、地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるような必要な支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	基本型	件	329	703	1170	1502	1600
	②	母子保健型	件	123	168	156	41	-
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	乳幼児健康診査（4か月健診）での相談ブースやイベントでの情報コーディネーターの配置が本格的に始動し、相談件数が増えた。また随時相談窓口担当を配置することで相談者に迅速に対応できるようになった。 （母子保健型）専任保健師・助産師が、多胎妊婦等へ妊娠届出時面談後も相談助言を行うとともに、基本型と連携し、子育て支援サービスにつなげることができた。					
課題	-							
今後の方向性	今後もニーズに寄り添った方法で相談を気軽に行えるような環境整備に努めていく。地域子育て支援拠点への巡回の回数を増やして連携を深めていく。							
85	事業名	子育て支援ネットワーク事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	4か月から1歳の誕生日までの乳児と保護者を地域の中で交流できる場を提供し、保護者同士のつながりのきっかけ作りと情報交流を促す。また、子育てに関わる機関・団体・民生委員・児童委員等の支援者と、子育て中の保護者団体等の当事者が構成する連絡会を開催し、子育てに係る情報交換や交流、イベントを実施し、各団体等の特色をお互いに認め合いながら、連携して子育て支援を行うとともに、地域での子育て力の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	あかちゃんあそび	人	463	555	608	295	320
	②	子育て支援団体連絡会	回	0	10	10	10	10
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	こども支援センターの開催分をわつくるに移行することで、参加者数は減ったが、わつくるのあかちゃんの日が月3回で参加者組数も25～50組近くになっており、保護者同士のつながりは出来ていると見受けられる。つどいの広場が近くにないため蔵垣内会館開催分も定員近くまでの申し込みもあり、保護者同士も和やかな雰囲気を楽しんでもらえている。					
課題	公民館の開催が1か所での地域限定となるため（公民館の場所を知らない）、参加者の数が読めない。							
今後の方向性	蔵垣内会館は参加者が一定数あるので、開催を継続する。公民館開催については協議の上、開催場所を決定する。							
86	事業名	地域子育て支援拠点事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	就学前児童とその保護者が気軽集える場を設置し、地域の中で安心して子育て・子育てができる環境を整備するとともに、公私立保育所（園）に地域子育て支援センターを設置し、子育て世帯に対して専門的な支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	広場開設数	か所	20	20	21	22	22
	②	広場来所者数	人	43975	68175	87415	86250	87000
	③	地域子育て支援センター開設数	か所	5	5	5	5	5
	④	地域子育て支援センター来所者数	人	6615	10401	13998	15160	16000
	R6年度の取組内容及び成果	評価	概ね小学校区に1か所地域子育て支援拠点を設置することで、身近な地域の中で安心して子育て・子育てができる環境を整備することができた。					
課題	対象世帯の地域子育て支援拠点を認知度が低い。							
今後の方向性	引き続き就学前の子育て世帯の孤立化を防ぐため、対面での交流や相談、情報提供の場をつくるよう努め、SNSやわつくる等を活用し広く周知する。							

87	事業名	青少年健全育成事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年健全育成運動を推進し、より一層の青少年育成を図るために青少年問題協議会が青少年育成の方針を樹立し、関係機関・団体と有機的に連携をとりながら、青少年育成のための諸事業の実施及び問題行動の防止等に努める。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	茨木市青少年健全育成事業補助金交付団体数	団体	51	55	64	66	70
	②	青少年が行事の一部を担当した割合	%	74	77	79	74	75
	③	青少年による青少年のためのイベントに参加した高校生・大	人	91	141	116	101	100
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	「ほっとけん！アワード」、「青少年による青少年のためのイベント」、青少年指導者向けの研修等の事業を実施し、地域での大人と子どもの顔の見える関係づくりや、イベントに参加した子ども・生徒・学生の異年齢の交流や自己有用感を感じる機会の提供、青少年指導者の育成などが推進できた。					
	B							
課題	地域の青少年育成行事が縮小しており、こどもの異年齢交流や自己有用感を感じる機会の提供が必要である。SNS等に起因するトラブルに青少年が巻き込まれる可能性がある。							
今後の方向性	地域での取組を促進する方策を検討するとともに、異年齢交流や自己有用感を感じる機会の提供を図っていく。SNS等のトラブルから青少年を保護するため、最新の情報を青少年の指導者や保護者に向けて周知・啓発する。							
88	事業名	家庭教育支援事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習のきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習のきっかけづくりの推進						
	事業内容	家庭教育を支援するために学校と連携しながら、保護者同士が交流し学びあう家庭教育学級の開設や、家庭教育講座等学習機会の提供等を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	講習・講座の開設数	回	112	135	142	7	21
	②	講習・講座の参加者数	人	1208	1506	1523	142	210
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	参加者負担軽減のために事業手法を見直した。開設数及び参加者数については見直しに伴い集計方法を変更している。					
	B							
課題	家庭教育学級については、事業委託形式の見直しを図るなど、参加者負担軽減の取り組みを行ったが、参加者数の減少傾向が続いている。							
今後の方向性	ICTの活用や関係団体との連携等を進めながら、社会的課題を踏まえた学習機会の提供に努めるとともに、新たな実施手法を検討していく。							

◇ 基本目標

I	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(3)地域課題解決のための生涯学習の充実
III	取組内容	● 各地域が抱える課題や問題を地域社会で解決することができるよう、健康、人権、男女共同参画、家庭・家族、消費者問題、交通、科学技術、情報化、雇用等の課題に関する講座の充実に努めます。

◇ 事業内容

89	事業名	母子・父子福祉事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	こども政策課			
	再掲	-						
	事業内容	生活困窮世帯・ひとり親家庭の中学生を対象に学習支援を実施します。また、生活上の問題や進路選択（進学に要する費用や奨学金など）に関する各種相談に応じます。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	継続参加率	%	56	50	50	51	70
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	参加生徒に対して、学習・生活両面で充実した支援を実施した。 B 中学校の最初の家庭訪問後に各学校を周って、利用中の生徒や案内したい生徒の情報交換を校長先生等と行った。また、児童扶養手当現況時には対象となりそうな生徒の保護者に直接案内をするなど、必要な生徒に本事業がにつながるよう事業周知を行った。今後とも、参加が望まれる生徒に支援が届くよう、様々な方法で周知を図る必要がある。					
課題	利用の継続が難しい生徒もあり、支援が必要な生徒に繋がりにくい。支援が必要な家庭に直接的な情報提供と手続きの支援が必要である。今後とも対象世帯への利用促進を進める。							
今後の方向性	未登録の対象生徒やその家族に対し、継続的な利用勧奨を実施する。							
90	事業名	【再掲】ローズWAM相談事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	市民の、とりわけ女性の相談を様々な切り口で実施することを通して、市民生活をサポートする。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	女性相談件数	件	2113	2038	1964	1833	2000
	②	特別相談件数	件	110	110	99	128	120
	③	相談関係研修等参加者数	人	20	35	33	33	35
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 複雑化する相談内容に対応するため、関係部署や関係機関と連携したケース対応を行った。					
課題	複雑化する相談に対応して市民生活をサポートするため、相談員の知識・技術の向上が必要である。							
今後の方向性	相談件数の増加、相談内容の複雑化が予想されるなか、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行されたことに伴い、さらに関係部署や関係機関との連携を推進する必要がある。							

91	事業名	地域における男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	地域における男女共同参画を促進するため、地域と協働して男女共同参画の推進に資する講座等の実施及び市民の自主的な男女共同参画活動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	市民協働企画講座開催回数	回	83	104	101	100	100
	②	市民協働企画参加人数	人	1559	1774	1782	1789	1800
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A ローズWAM 1階の喫茶跡スペースを活用しての「WAMcafe」や講座やワークショップの企画を募集する「WAMチャレンジ企画」といった市民が自ら企画した男女共同参画に資する事業や公益活動事業の実施が増加し、多くの方に利用していただいた。					
課題	喫茶跡スペースについては、男女共同参画に関する事業や公益活動のために定期的に利用していただくとともに、新たな利用者にも企画を実施していただき、新たな視点を取り入れる必要がある。							
今後の方向性	喫茶跡スペースの利活用について大学に情報提供を行い、若年層の視点や専門的な視点を取り入れた事業展開を行う。							
92	事業名	いのち・愛・ゆめセンター運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 学びづくりへの取組、(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進						
	事業内容	社会福祉法及び基本的人権尊重の精神に基づき、地域交流及び住民福祉の向上をめざし、市民に対する人権啓発を推進し、人権課題の解決を図り、人権が尊重される社会の実現に資することを目的に、各種事業や、地域交流、情報収集、貸館等を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	施設利用者数	人	63988	90423	93233	104948	100000
	②	センターニュース発行部数	部	87000	89400	99100	93400	94000
	③	講座等参加者数	人	5407	7705	6786	8747	9000
	④	まつり参加者数	人	268	1509	2159	2042	2200
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B まつり等地域交流行事を開催し、ようやくコロナ禍前の状況を超える人数の参加を得るようになった。また、多文化共生の推進に向けて、外国人住民への学びと交流の場の提供、サポーターの育成等も継続して行った。					
課題	多文化共生支援に取り組む各課との連携を図るとともに、地域社会での外国人住民の孤立といった昨今の課題に対応できるよう外国人住民への情報提供や相談体制を強化、また、外国人住民の活躍の場を提供する必要がある。							
今後の方向性	人権尊重の視点を軸とした上で、時世の住民ニーズに敏感に対応し、求められる事業の試行等を積極的に取り組む。							
93	事業名	食育推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	健康づくり課			
	再掲	-						
	事業内容	市民が規則正しく、栄養バランスのとれた食事をすることで、健康な身体を維持するとともに、「食」を通じて、食卓を囲む人同士のコミュニケーションを豊かにし、こころの充実が図れる環境づくりを目指す。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	食育SAT（健康づくりセミナー）	回	9	14	16	14	14
	②	食育出前講座	回	1	10	19	17	10
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 食育SAT（健康づくりセミナー）は目標値を達成した。出前講座は中学校や市民団体からの依頼が増えたことから、目標値を上回った。					
課題	健康づくりセミナーは若年健診時に実施しており、普段接する機会の少ない若年世代であるため引き続き開催する必要がある。 出前講座はさまざまな世代の団体から依頼があるため、それぞれのライフステージに合わせた学習機会の提供や、多様な生活スタイルに応じた食育推進の取組を行うことが課題である。							
今後の方向性	より若い頃からの食育を推進するため、健康づくりセミナーや出前講座の内容の充実を図る。 また、さまざまなライフステージに合わせた健康づくりの啓発を行うため、多様な団体からなる茨木市食育推進ネットワークと連携して日常に取り入れやすい講話や調理実習等を通じて、食環境整備に取り組む。							

94	事業名	健康増進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	健康づくり課			
	再掲	-						
	事業内容	健康増進法や「健康いばらき21・食育推進計画(第3次)」に基づき、市民自らの生涯にわたる健康づくりを推進する。 自殺対策基本法や「茨木市いのちを支える自殺対策計画」に基づき自殺予防を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	健康教育(健康づくりセミナー)	回	9	16	16	14	14
	②	歯科疾患健康教育(出前講座)	回	13	16	21	11	10
	③	ゲートキーパー養成講座	回	5	10	11	19	6
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 講座開催数は、全てにおいて目標値に到達している。成果については、事後アンケートを実施している講座等において、高評価を得られており、次年度以降の継続開催にもつながっている。					
課題	健康教育は生涯にわたる健康づくりを促すため、健康無関心層・低関心層の健康行動につながる情報の提供や啓発等がさらに必要である。 ゲートキーパー養成講座に関しては、引き続き実施していく必要がある。							
今後の方向性	健康教育は、活動内容の周知方法や、SNS等を通じた健康情報の発信方法について検討を進める。 ゲートキーパー養成講座については引き続き、講師役やゲートキーパーを養成し、より多くの市民への普及を図る。							
95	事業名	更生保護推進事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	地域福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	法務省の提唱する非行・犯罪を防止する社会啓発運動で住民がそれぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築くための活動を実施する。 また、更生保護の担い手である保護司が行う事業に対し助成する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	市民大会開催数	回	1	1	1	1	1
	②	啓発ポスター掲示交通社数	社	0	5	5	5	5
	③	刑務作業製品の販売日数	日	0	2	2	2	2
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 市民大会においては、令和6年度はおいクルで開催し、昨年を大きく上回る来場者に社会を明るくする運動の周知・啓発を行うことができた(来場者650名)。 また、矯正展のチラシ・ポスターのデザイン制作を浪速少年院の院生に依頼することで、浪速少年院との連携の機会を増やすことができた。					
課題	社会を明るくする運動茨木市推進委員会の構成団体のなかでも、運動に対する意識の差が大きく、事業に関わる団体が限られている。犯罪や非行からの立ち直りを地域全体で支える安全・安心な明るい社会の実現のためにも、より多くの団体を巻き込む方法について検討が必要である。							
今後の方向性	より多くの団体を巻き込みながら、更生保護活動の周知や啓発の効果的な方法について引き続き検討していく。							
96	事業名	両親教室(パパ&ママクラス)						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	妊娠中から出産や育児に関する情報提供、相談支援体制の充実を図るため、妊婦やそのパートナー等が参加する講座を実施します。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	実施回数	回	6	12	12	19	24
	②	受講者人数	人	305	457	478	853	950
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 開催日を月2回に増やしたことで、参加者数が前年度から増加した。					
課題	電子申込み開始直後に定員に達し、多い月ではキャンセル待ちが発生する。							
今後の方向性	土日を含めた開催日の調整を検討する。							

97	事業名	【再掲】生涯学習センター出前講座実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	市内で活動されている団体等が、自発的に学びたいメニューを選択できるよう、市の様々な事業や施策について講座を受けられるように出前講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	出前講座メニュー数	件	117	119	115	124	130
	②	出前講座実施件数	件	132	272	795	818	850
	③	出前講座受講者数(延人数)	人	2953	9176	61662	33348	50000
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 市民等が多様な分野における市の事業や施策について学ぶ機会が提供できるように、令和6年度は令和5年度よりも出前講座メニュー数が増加した。また受講者数については、令和5年度と比較してニーズの高い消防関連講座にて受講生が減少傾向にあるものの、実施回数は増加していることにより市の事業について学習する機会は増加している。					
課題	引き続き、市の多様な事業や施策について学ぶ機会が提供できるよう、講座情報の発信を行う必要がある							
今後の方向性	各課の講座情報を集約し、講座情報の発信を行う。							
98	事業名	乳幼児療育支援事業(すくすく親子教室)						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	発達支援課			
	再掲	-						
	事業内容	療育を必要とする乳幼児が日常生活における基本的な動作の習得及び集団生活に適應することができるよう、適切かつ効果的な集団的療育指導(児童発達支援事業)、相談を行う。 また、乳幼児を持つ保護者の方が発達支援の必要を感じたときに電話、面接相談や、親子ひろば・つどいの広場巡回で相談にのり、保護者の負担軽減を図り、子どもの健全な発達を支援する。 地域で孤立することなく連続した支援を継続するため引き続き相談を受ける体制、学習会の開催を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	すくすく親子教室 延利用者数	人	3595	5137	3942	3535	4000
	②	親子ひろば 延利用者数	人	206	296	256	262	280
	③	電話相談 延利用者数	人	207	189	163	175	180
	④	外部講師学習会、講演会	人	51	25	45	56	50
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 前年度に比べるとすくすく親子教室利用者数は減少しているが、親子ひろば・相談件数は増えており、ニーズ合わせた対応はできたと評価できる。外部講師による学習会や講演会についても保護者が知りたい情報を提供できた成果であると評価する。					
課題	引き続き、こども保健グループと連携しながら健診フォローの強化に努め、親子への切れ目のない支援をいかに充実したものにしていかがが課題である。親子ひろばの開催についてもより充実したものにできるよう検討していきたい。							
今後の方向性	発達に課題のあるこどもの健診後の切れ目のない支援体制について、引き続き、保護者が安心して子育てできる体制を整えていく。こども保健グループとの連携を密にし、協議検討したことを定期的に見直しをしていく。							
99	事業名	地域でのまちづくり推進事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	都市政策課			
	再掲	-						
	事業内容	市民がまちづくり活動等に参加するきっかけづくりや意識啓発のための事業を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	太田知恵の和開催	回	1	2	3	3	-
	②	まちづくりアドバイザー派遣	回	3	11	5	5	-
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 太田知恵の和では、住民の得意なことを活かしたまち歩き、大学という学びの場を活かした小学生向けのサマースクール、学園祭でのブース出展による活動の周知を実施した。また、令和7年度の本格実施に向けた学生発案のイベントも実施するなど大学が主となったイベントの充実を図っている。また、まちづくりアドバイザー派遣制度では、地域のまちづくりガイドラインに記載している「みんながコミュニケーションをとれるまち」を実際にどのように進めていけるかの話し合いが行われた。					
課題	地域住民や大学等が主体的にまちづくりに参加し、継続した取り組みにする必要がある。							
今後の方向性	多様な主体による連携体制を定着させ、持続可能なまちづくりを自走化できるよう支援していく。							

100	事業名	介護保険サービス向上推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	-						
	事業内容	サービス利用者等が介護保険制度を信頼し、安心して適正な介護サービスの提供を受けることができるように、サービスの質の確保及び向上に努める。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	介護相談員派遣回数	回	40	119	326	427	350
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 施設訪問を行い、入所者の相談を受ける等の活動が、継続的に実施できている。					
課題	介護相談員の高齢化であり、新たな介護相談員のなり手の不足が課題である。							
今後の方向性	介護施設と介護相談員の良好な関係を継続し、介護相談員派遣事業を継続する。							

◇ 基本目標

I	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(4)大学等と連携した学習機会の充実
		-
III	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 専門的かつ特色ある学習内容を提供するため、大学など高等教育機関と連携した講座・教室の拡充を推進します。

◇ 事業内容

101	事業名	大学連携プラットフォーム事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	政策企画課			
	再掲	3 まちづくりへの取組、(5)地域に関する学習機会の充実						
	事業内容	茨木の魅力である多数の大学立地を活かし、市内大学や連携協定を締結している各主体で構成される連携プラットフォームを構築、運営し、情報共有や、地域との連携、大学間の連携促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	市で後援を行った講演会等の回数	回	1	1	2	2	-
	②	大学間連携の検討会議	回	6	3	4	3	3
	③	大学共同研究マッチング件数	回	3	12	2	12	8
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 大学と連携した生涯学習の推進のための土壌づくりとして、定期的に大学の地域連携担当課との対話の場を設け、様々な意見交換を実施し、連携の促進を図った。					
課題	大学との共同事業や共同研究等のさらなる推進を図る必要がある。							
今後の方向性	令和7年度から藍野大学における健康科学科の新設や追手門学院大学における理工学部の新設など、各大学の展開を捉えながら、大学が持つ幅広い専門性を活かした連携を通して、地域の課題解決や活性化、市民サービスの向上に向けた取組を推進していく。							
102	事業名	市内大学連携講座の実施						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	生涯学習に取り組む市民を支援するとともに活動の充実・向上を図るため、生涯学習センターにおいて市内大学連携講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	市内大学講座等実施回数	回	15	14	26	26	30
	②	市内大学講座等参加者数(延べ人数)	人	1778	282	2802	1981	2200
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 令和6年度は参加者数が減少したものの、講座実施回数は令和5年度と同等の26講座を開催し、大学等の特有の学習機会を提供することに努めた。					
課題	より充実した講座を開催するために、新規分野の講座ニーズの把握を行う必要がある。							
今後の方向性	新規講座の発掘に向けて、既存講座等のアンケート結果等から市民ニーズを把握し、関係機関と調整を行うことを検討する。							

◇ 基本目標

I	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

II	生涯学習推進の取組	(5)地域に関する学習機会の充実
III	取組内容	● 地域の産業、歴史、自然、特色等の学習を通して、地域社会への関心を高め、地域を愛する心を育み、地域社会での生活を向上させるための課題意識を持つことができる学習機会の充実に努めます。

◇ 事業内容

103	事業名	魅力発見ツアー事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	市内外の人により茨木市の魅力を発信できるバスツアー等を開催する。市政への関心と理解を深めるため、「魅力発見ツアー」については、その時々話題となっている民間施設やスポットを巡り、「まちの魅力」を知っていただく。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	実施回数（魅力発見ツアー）	回	3	3	2	2	2
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 吊り橋エリアのオープンを控えた「ダムパークいばきた」をはじめ、地域資源を活かしたツアーにより、自分たちのまちをより深く知ることで、まちへの愛着の醸成を図ることができた。 また、新たな魅力資源である「ダムパークいばきた」でのツアー実施や、市内事業者とも協力することで共創のまちづくりの推進を実感していただくことができた。					
課題	ツアーに参加していただける枠が多くないため参加者の満足度は高いものの、波及効果が限定的である。 また、ファミリー層をターゲットにしたツアーとなっているが、自動車での参加を要するなど、対象者も限定されてしまう。							
今後の方向性	事業内容について適宜見直しを図りながら、今後も継続的に実施する。また、ツアー形式に加えて、開催回数についてもあわせて検討する。							
104	事業名	富士正晴記念館事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	郷土の作家富士正晴氏に関する資料の収集・整理・保存を行い、冊子の刊行や、整理資料の公開、講演会（年1回）を実施し、文化芸術の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	記念館来館者数	人	3093	3527	4154	3440	3500
	②	講演会参加者人数	人	37	39	28	27	30
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 来館者数は減少したが、企画展・講演会・子ども向けイベントの開催、移動図書館ともしび号出展時におけるクイズの実施、及び企画展に関連する図書の特集を中央図書館で行い、幅広い市民に記念館を知ってもらうとともに、富士正晴の実績や魅力を発信することができた。					
課題	郷土の作家である富士正晴について知らない市民が多く、認知度が低い。							
今後の方向性	富士正晴の文学活動における交流がわかる冊子を作成し、広く郷土ゆかりの作家「富士正晴」と「富士正晴記念館」の周知を図るとともに、引き続き子ども向けイベント等を実施することにより、富士正晴の魅力発信に取り組む。							

105	事業名	さくらまつり実施事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	公園緑地課			
	再掲	-						
	事業内容	元茨木川緑地において、身近な自然に親しむ場や交流・レクリエーションの場を提供することで、豊かな環境を啓発するとともに、市民の連帯感やふるさと意識の充実を高め、まちの活性化を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	さくらまつりの来場者数	人	6394	13380	9400	16189	15000
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 通り抜けによる桜の鑑賞（夜間はライトアップ）を実施し、期間中の休日には移動図書館ともしび号の出勤（中央図書館）、桜の枝配付（茨木緑化連合会）、いばらきキッチンカーフェス・てづくり市（茨木商工会議所）が実施され、多数の来場者でにぎわった。					
課題	イベントが休日の単発開催であることから平日は少し閑散とした雰囲気であるため、期間中継続した催しに協力していただける事業者の確保をする必要がある。							
今後の方向性	市民団体や民間団体等によるイベント等の開催を促し、さらなる地域の活性化を図る。							
106	事業名	緑化推進事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	公園緑地課			
	再掲	-						
	事業内容	都市緑化の推進により、緑豊かで潤いのある街づくりを図るため、公園及び公共性の高い空間に面する民有地等に市と地域住民との協働で花と緑の輪を広げ、また、住宅等への生垣設置や接道部での緑化、壁面緑化の経費を助成し、地域緑化を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	花と緑の街角づくり推進事業の参加者数	人	1856	1870	1804	1788	1800
	②	民有地緑化助成事業の補助件数	件	4	7	7	1	6
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 市内の緑化促進に向けて取り組みを進めているが、花と緑の街角づくり推進事業については参加者数が、民有地緑化助成事業については件数がそれぞれ減少したため、これに対応するために、広報誌への記事の掲載で周知を図りました。					
課題	花と緑の街角づくりについては、参加者の高齢化が進んでいるため、新たな実施団体と参加者の確保に努めるとともに、花苗の種類を工夫する等、より管理しやすい花苗の提供を図る必要があります。 民有地緑化助成事業については申請件数が減少したため、その要因を分析するとともに、緑化推進の観点からさらなる周知を図る必要があります。							
今後の方向性	高齢化等が原因で、参加者が減少している事業もあり、今後さらなる周知や参加者の掘り起しを行う必要があります。							
107	事業名	共創推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	共創推進課			
	再掲	-						
	事業内容	おにクルを共創の中心地、活動の実験場として、様々な主体や活動の掛け合わせが展開され、まちなかへ浸透していくような事業を進めていく。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	市民ワークショップの開催	回	16	14	7	5	4
	②	IBALAB@広場での市民企画等の実施	回	70	229	195	102	-
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A ・市民会館跡地エリアの整備におけるコンセプト「育てる広場」を実現するための暫定広場での市民参加の取り組みやつながる広場づくりの要素などを取りまとめた冊子の作成やおにクルで行われた事業や実験的な取組も含めて、振り返り等が行えるようにアーカイブとして取りまとめた。					
課題	IBALAB@広場の社会実験が終了したことで、おにクルにて引き続き様々な活動が行われているが、施設が大きくなることで市民との距離感が出来ている。							
今後の方向性	おにクルオープンスペースの利用者との協議を引き続き行い、関係性を構築するとともに、全館イベント等への巻き込みや市、利用者互いのイベントに混ざりあうような仕掛けを検討し、共創のまちづくりの推進を図る。							

108	事業名	北部魅力アップ事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	北部整備推進課			
	再掲	-						
	事業内容	本市北部地域にある緑豊かな自然環境や歴史環境、現在事業推進している安威川ダム周辺整備事業、彩都の大規模プロジェクトなどの資源をつなぐとともに、地域課題や地域のあり方も踏まえ、北部地域の魅力向上を図るための検討と取組を地域や関係団体とともに進める。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	公園づくりワークショップ等参加者数	人	111	148	126	111	60
	②	出前講座受講者数	人	17	100	178	194	100
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	自治会や学校向けに出前講座を実施し、安威川ダム周辺整備や彩都事業の周知を図るとともに、北部地域活性化のハブ拠点となる「ダムパークいばきた」で活動したい方を対象としたワークショップを開催。個人・団体・企業といった多様な主体で、山とまちをつなぐ仲間として「ダムパークいばきたコミュニティ」を結成し、北部地域の資源を使った日常的な活動が行われた。10月にはコミュニティ主催で参加者の普段の活動等を集約した「ダムパークいばきたフェスティバル」を実施し、多くの方に知っていただく機会となった。					
課題	ダムパークいばきたをきっかけにこれまで北部地域に来たことが無かった人が来るようになったものの、周辺の施設や地域資源に触れる機会を上手く提供できていないため、引き続き学習機会を活用し、地域に関わりたいと思える場づくりを行う必要がある。							
今後の方向性	引き続き、より多くの方に北部地域の魅力について知る機会を提供し、関心を喚起するための情報発信を行う。 また、地域全体での魅力を向上させるべく、地域や関係団体と関わりを持ち、北部地域で話し合える協議会のような場を立ち上げ、一緒になって取り組んでいく。							
109	事業名	大阪ミュージアム関係事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	大阪のまち全体をミュージアムに見立て、魅力的な地域資源を発掘・再発見すること等によりまちの魅力を内外に発信することを目的とし、本市にある魅力的な地域資源を大阪ミュージアム登録物として登録し、登録物を活用した観光推進を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	新規登録物件数	件	0	0	0	0	1
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	市内の登録物等の情報発信を行った。					
課題	広域的に周知できる本事業のスキームを有効に活用するため、新たな登録物の登録やPRに積極的に取り組むことが必要である。							
今後の方向性	本市の魅力を多く・広くPRできるよう、新たな登録物の登録を検討する。							
110	事業名	観光あるき事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	阪急沿線において、沿線自治体と鉄道事業者が実行委員会を作り、地域の魅力を発信していくことを目的とし、「阪急沿線観光あるき」のPR事業やイベント等を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	ウォーキングアプリでの本市コースの踏破回数	回	698	359	268	374	300
	②	ガイドツアー参加者数	人	18	29	29	22	30
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	阪急沿線観光あるきのウォーキングアプリにおいては、実績を踏まえて見直しを行い、昨年の比較して踏破回数が増加した。 ガイドツアーについては「茨木、温故知新ウォーク」を設定し、観光協会(ボランティアガイド)との連携のもと実施した。					
課題	実行委員会での広域的な広報等を積極的に行い、参加を促進することが重要である。							
今後の方向性	沿線自治体とも連携し、広域に発信できる効果的なツールでもあるので、本市の魅力を多く・広くPRできるよう、ウォーキングコースや魅力スポットの設定を適宜更新していく。							

111	事業名	茨木フェスティバル事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	市民意識の高揚とみんなの郷土づくりを推進し、市民の連帯感を高めるため、市・商工会議所・観光協会・青年会議所の4者協働で構成する茨木フェスティバル協会によりイベントを開催する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	茨木フェスティバル事業来場者数	千人	中止	105	123	133	120
	②							
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	A						
		第50回という節目のフェスティバルで、新たな企画にも取り組み、官民協働で開催できた。						
課題	フェスティバル協会構成団体や実行委員会と適宜協議し、適切な実施方法を検討する必要がある。							
今後の方向性	旧IBALAB@広場の使用不可に伴い来場者の動線確保を行い、安全性を重視して、効果的なイベントの継続ができるよう、フェスティバル協会において検討を進める。							
112	事業名	【再掲】大学連携プラットフォーム事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	政策企画課			
	再掲	-						
	事業内容	茨木の魅力である多数の大学立地を活かし、市内大学や連携協定を締結している各主体で構成される連携プラットフォームを構築、運営し、情報共有や、地域との連携、大学間の連携促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	市で後援を行った講演会等の回数	回	1	1	2	2	-
	②	大学間連携の検討会議	回	6	3	4	3	3
	③	大学共同研究マッチング件数	回	3	12	2	12	8
④								
R6年度の取組内容及び成果	評価	B						
		大学と連携した生涯学習の推進のための土壌づくりとして、定期的に大学の地域連携担当課との対話の場を設け、様々な意見交換を実施し、連携の促進を図った。						
課題	大学との共同事業や共同研究等のさらなる推進を図る必要がある。							
今後の方向性	令和7年度から藍野大学における健康科学科の新設や追手門学院大学における理工学部の新設など、各大学の展開を捉えながら、大学が持つ幅広い専門性を活かした連携を通して、地域の課題解決や活性化、市民サービスの向上に向けた取組を推進していく。							
113	事業名	川端康成文学館運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	多くの市民に川端文学に親んでもらう拠点として、川端康成ゆかりの資料の展示等を行うことにより、教養を高め、市民文化の向上に寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	川端康成文学館入場者数	人	4336	9334	6093	5950	8000
	②	川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	369	627	622	656	700
	④							
R6年度の取組内容及び成果	評価	B						
		川端康成文学館において、若い世代をターゲットにした文学に親しみきっかけとなるような企画展を開催しました。また実施している文学講座の受講者数は、例年通り多くの方にお申込をいただいています。しかしながら、年間で複数回開催している展示の来館者数はコロナ前までの回復はできておらず、前年度から微減となっています。文学に関心が高くない方への訴求力のある取組がさらに求められるため、「B」評価とします。						
課題	文学館について、過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方、とくに若者世代などへ訴求力のある、文学に親しみきっかけとなるような取組が必要です。							
今後の方向性	より多くの世代の方に文学館に足を運んでもらうよう、学生や若年世代をターゲットとした講座や展示などの企画をさらに検討し、効果的な広報を検討します。							

114	事業名	文化財発掘調査事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	歴史文化財課			
	再掲	-						
	事業内容	文化財保護法の定めにより、市内に存在する埋蔵文化財の発掘調査を開発行為等に先立って行う。また、埋蔵文化財の保存と活用を図り、郷土愛の醸成、市民文化の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	発掘調査件数	件	176	136	130	150	160
	②	出土遺物整理事業費	千円	14850	13530	17930	10340	11180
	③	史跡等維持管理費	千円	4009	632	2184	1867	2186
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 発掘調査出土遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めるとともに、大型現場での見学会を開催した。					
課題	多くの市民に文化財保護の取組に対する理解を深めてもらえるよう、働きかけていく必要がある。							
今後の方向性	守り伝えられてきた本市の多様な文化財の魅力を引き出す課題・研究を進め、その成果をまとめ、公開していく。							
115	事業名	文化財保護事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	歴史文化財課			
	再掲	-						
	事業内容	指定文化財をはじめ市内に残された文化財に対し、その保存と活用のために必要な措置を講ずることにより、郷土の歴史の正しい理解と郷土愛の醸成を図り、市民文化の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	「テーマ展」入館者数	人	4151	1886	2872	3323	3000
	②	「郷土史教室」延べ受講者数	人	319	178	217	287	300
	③	「古文書教室」延べ受講者数	人	66	154	187	161	200
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 文化財資料館開館40周年記念テーマ展の見学者数は、昨年度より増加した。これは本市とゆかりがあり、歴史上著名な藤原鎌足を取り上げたこと、高性能展示ケースを導入しての展示内容の充実等が要因にあげられる。リニューアルした来館記念品のカプセルトイも好評だった。郷土史料室では地域の史料の収集・整理・保存・活用に継続的に取り組んでいる。					
課題	多くの市民が本市の歴史や文化財の魅力に触れることのできる学習機会の確保が求められている。							
今後の方向性	多くの市民が本市の文化財の魅力に触れることのできる機会を提供する。							
116	事業名	ライフスタイルの省エネ化推進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	省エネ化を推進するため、イベントや広報媒体を活用して、省エネ活動につながる啓発を行うとともに、市民に省エネナビ（家庭用電力使用量測定機器）の貸出しと、地球温暖化防止を目的に電気・ガス等の使用量を記録し家庭での二酸化炭素排出量を計算する環境家計簿の普及の促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	環境家計簿に関する市民講座開催数	回	10	7	7	7	10
	②	環境家計簿に関する市民講座参加者数	人	111	161	143	86	150
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	B 市内で各環境保全活動に取り組む市民団体と協働し、市民参加型の事業を実施した。また、環境家計簿を作成し、その普及促進を行った。					
課題	定員に対して参加者が少ない講座がある。							
今後の方向性	引き続き、講座内容や実施時期、周知方法等を見直し及び検討を行っていく。							

117	事業名	生物多様性保全事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	市民団体と協働して生きもの調査員養成連続講座を実施する。市内の環境資源（動植物）の状況を、子どもを中心とする市民が観察する際に活用できるリーフレットやガイドブックを作成し配布することで、生物多様性の保全に向けた環境意識の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	生きもの調査員養成連続講座参加者数	人	95	169	97	90	90
	②							
	③							
R6年度の取組内容及び成果	評価	B						
								市域に生息する生きものを調査する「環境資源調査」に参加する調査員を養成するため、生きもの調査員養成連続講座を開催した。
課題	講座修了後も調査員として活動できる受講生が少ない。							
今後の方向性	引き続き、募集の際の参加条件や講座内容を再検討し、継続して活動可能な参加者を増やす。							
118	事業名	河川体験型環境教育事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	子どもと保護者が実際に川に入り、水生生物を捕獲・観察・同定することで、生物多様性など環境意識の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	参加者数	人	40	64	60	94	100
	②							
	③							
R6年度の取組内容及び成果	評価	B						
								主に小学生とその保護者を対象に、川の生きもの観察会を開催した。魚や水生生物を捕獲・観察・同定することで、生物多様性など環境意識の向上を図った。また、特定外来生物に関する啓発を行った。
課題	本講座の参加だけに留まらず、他の生物関連の講座に参加してもらいような、働きかけと工夫が必要である。							
今後の方向性	引き続き、参加者の安全に配慮した開催場所及び開催方法を検討する。その他、市が主催している生物関連のイベントへの参加を促すために、本講座内での周知に努める。							
119	事業名	ヒートアイランド対策事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	ヒートアイランド対策や環境意識の高揚のため、市内の学校等においてみどりのカーテンを設置するとともに、市民・事業者の取組に支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	市民モニター数	人	50	46	49	59	60
	②	学校・事業者等の取組組織数	施設	70	71	69	60	65
	③							
R6年度の取組内容及び成果	評価	B						
								市民モニター説明会を動画視聴によるオンデマンド方式で実施することで、事業者にも取り組みやすいように配慮して実施した。
課題	市民モニターの時だけではなく、継続的にみどりのカーテンの設置に取り組んでもらえるようにすることや、ヒートアイランド対策について、市民の方に周知して理解してもらうことが必要である。							
今後の方向性	引き続き、みどりのカーテンの取り組みを実施し、ヒートアイランド対策について周知していく。							

120	事業名	小学校区公民館講座等実施事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	各公民館において、社会教育の場として、地域住民のニーズに対応した文化、スポーツなどの講座等を開催し、住民の主体的な学習活動を支援する。現代的課題、地域課題について、地域の状況に合わせた取り組みを進める。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	講座等開設数	講座	268	347	346	357	360
	②	講座等受講者数	人	3942	6266	7963	9712	9800
	③	現代的課題・地域課題に関する講座等	講座	26	39	55	58	60
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 公民館講座等については、子ども・青少年を対象としたキャンプ等の講習会や、高齢者も参加しやすいニュースポーツの講習会を実施するなど、各地域での創意工夫により開設数・受講者数ともに増加した。また、現代的課題・地域課題の解決に向けた取組として、消費者教育や人権教育をテーマとした講習会も開催され、地域住民に多様な学習機会を提供できた。					
課題	地域の持続的発展のため、住民参加による地域課題の解決が求められている。							
今後の方向性	民間事業者等のノウハウを生かした講座等についての情報共有を図り、現代的課題・地域課題に関する講座等の開催を推進するとともに、子ども・青少年を対象とした講座等の充実も図る。							
121	事業名	市民参加型森林保全事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	農林課			
	再掲	-						
	事業内容	市民参加型の里山保全を推進することにより、美しい里山景観の復元や水源涵養能力など森林の持つ多面的機能を発揮させるほか、森林ボランティアを育成し、市民参加型の里山保全を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R3	R4	R5	R6	目標(R7)
	①	森林(環境)サポーター養成講座受講者数	人	0	25	22	24	25
	②							
	③							
	④							
	R6年度の取組内容及び成果	評価	A 定員25名の申し込みがあり、24名の認定・修了者を輩出し、多くの方が森林整備ボランティア団体に登録された。					
課題	森林ボランティアの活動拠点である里山センターが老朽化により利用停止となるため、講座の実施場所の確保が必要となる。							
今後の方向性	講座受講生の確保と森林整備ボランティアの活動を活性化するためには、都市住民が里山に親しめる施設が重要となることから、できるだけ早急に新たな施設が設置できるよう努める。							